

第4次

岡崎市社会福祉協議会

ボランティアセンター 推進計画

(令和5年度～令和9年度)

目次

第1章	計画の策定にあたって	
1	計画策定の背景	3
2	計画の趣旨	3
3	SDGsの推進	4
4	計画の位置づけ	4
5	計画の期間	6
第2章	計画の対象	
1	ボランティア活動とは	9
2	ボランティアセンターとは	9
第3章	ボランティア活動推進に関する現状と課題	
1	第3次計画の取組状況	13
(1)	総合的な推進施策	13
(2)	担い手の育成	15
(3)	ボランティアセンターの機能強化・拡充	22
(4)	災害時のボランティア活動	25
2	ボランティア活動の現状と課題	27
①	ボランティアの登録状況とアンケート結果から	27
②	近年の社会情勢	28
③	ボランティアを取り巻く地域課題	28
第4章	ボランティア活動推進の基本的な考え方	
1	基本理念	31
2	基本目標	31
3	取り組みの3つの柱	31
4	施策の体系	32
第5章	ボランティア活動推進に向けた施策	
1	ボランティア活動が充実し、活性化していく社会にしましょう	35
(1)	ボランティアセンターの情報発信	35
(2)	福祉に触れる機会の提供	36
(3)	ボランティアが活動しやすい環境づくり	36
(4)	ボランティアセンターの環境整備	37
(5)	専門性を活かしたコーディネート	37
2	すべての人が支え合い、共に生きる社会にしましょう	38
(1)	福祉関係ボランティアの養成	38
(2)	ボランティア活動者への支援	39
(3)	テーマ型×地縁型のボランティア	39
(4)	福祉教育	40
(5)	福祉の個別課題へのアプローチ	41
(6)	企業の社会貢献	41
3	いつまでも安心して住み続けられる社会にしましょう	42
(1)	災害時に向けた体制整備	42
資料編		
◆	ボランティアセンター登録団体アンケート調査結果	45
◆	ボランティアに関するアンケート調査結果（福祉事業所）	58

第1章

計画の策定にあたって

1 計画策定の背景

岡崎市社会福祉協議会（以下、「市社協」）では、平成21年度に「市社協ボランティアセンター推進計画」（以下、「推進計画」）を発行し、第2次推進計画、第3次推進計画と3か年～5か年ごとの方向性や具体的な取組を示し、ボランティア活動の拡大やセンターの基盤整備に努めてきました。

近年、地域におけるつながりの希薄化、少子高齢化の進展、高齢者等の社会的孤立、経済的困窮の対応等、福祉のニーズは複雑化、多様化しており、地域における助けあい、支えあい等に対し、ボランティア団体やNPOなどの活躍が期待されています。

ボランティアセンターは、岡崎市福祉会館から社会福祉センターへの移転や、新型コロナウイルス感染症の影響で活動しづらくなる等の環境の変化がありましたが、ボランティア活動者も職員も試行錯誤しながら活動に取り組んできました。これまで取り組んできた福祉ボランティアの養成やボランティア活動の支援等の具体的な事業を通して、出会いと学びを提供し、状況に応じて多様な活動を推進してきました。ボランティアにより参加しやすく、活動しやすいような環境を整備するなど、側面から支援する役割を担うことが肝要と考えております。また、新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア活動が衰退することなく、ウィズコロナの活動やアフターコロナに向けた取り組みを進める必要があります。

こうした背景から市社協では、アンケート調査の結果や前期の計画の実施状況等を評価するなど、ボランティアセンターの今後の活動指針となるよう「第4次岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター推進計画」（以下、「本計画」）を策定します。

2 計画の趣旨

平成29年度に岡崎市と市社協の協働により策定された「第3次岡崎市地域福祉計画」の計画期間（平成29年度～令和3年度）の終了に合わせ、引き続き岡崎市と市社協で「第4次岡崎市地域福祉計画」を策定し、令和4年度から令和8年度の5年間を実施期間とした取り組みがすでに始まっています。

本計画についても、第4次地域福祉計画の実現に向け、第3次推進計画の評価やアンケート調査の結果も含めて考察し、今後のボランティアセンターが担うべき役割や方向性を明確にするために策定します。

3 SDGsの推進

2015年9月の国連サミットにおいて、国際社会全体の開発目標としてSDGs（持続可能な開発目標）が採択されました。2030年までに世界中で達成すべき事として掲げられ、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、17の目標と169のターゲットから構成されています。

ボランティアセンターもSDGsの理念や開発目標など、SDGsの視点を取り入れながら各種事業に取り組んでいきます。



4 計画の位置づけ

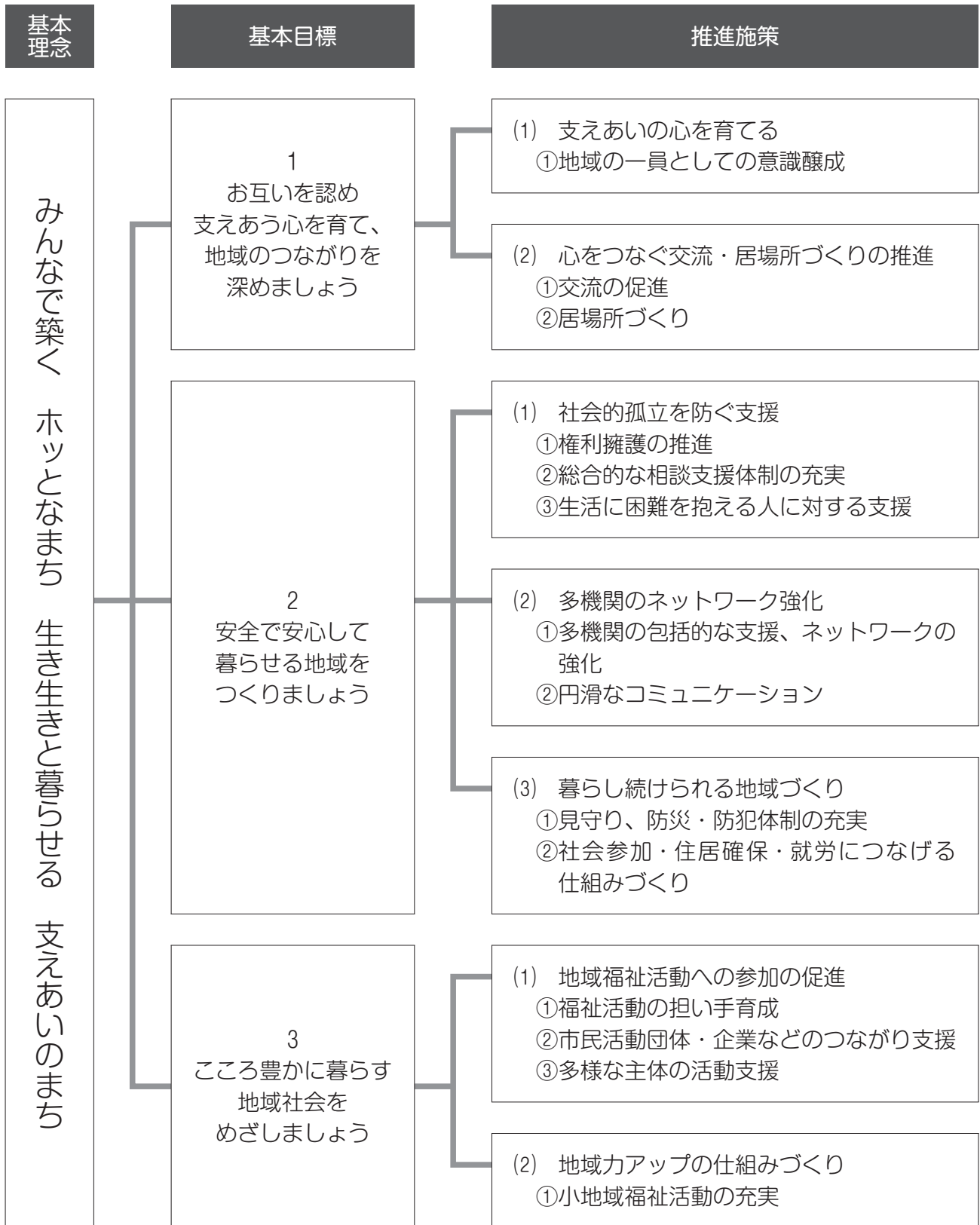
令和4年3月に策定した第4次岡崎市地域福祉計画では、「みんなで築く ホットなまち 生き生きと暮らせる 支えあいのまち」を基本理念に掲げ、3つの基本目標と7つの推進施策が挙げられています。

また、「第4章 施策の基本方針」では市社協で取り組むべき事項が掲載されており、ボランティアセンターが担うべき役割の重要性を知ることができます。

本計画では、第4次岡崎市地域福祉計画の方針に則し、ボランティアセンターに求められる体制整備、仕組みづくりや人材養成の推進を図ります。

第4次岡崎市地域福祉計画の施策体系は、次のようになっています。

第4次岡崎市地域福祉計画



(第4次岡崎市地域福祉計画の体系)

5 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5か年とします。

また、社会情勢の変化、事業の方向性や方策に変更が生じる場合には市社協内部で検討のうえ、ボランティアセンター運営委員会に諮り、計画の見直しを行います。

	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
地域福祉 計画	第2次計画					第3次計画					第4次計画 施策編・実践編					
地域福祉 活動計画																
本計画		第2次計画					第3次計画			第4次計画						

第2章

計画の対象

計画の対象

本計画の対象となるボランティア活動とは、「どのような活動を示すのか」「ボランティアセンターとはどのような機能を持ち、業務を行っているのか」について触れておきます。

1 ボランティア活動とは

ボランティア活動は誰かに強制されて行うことではなく、自発的な意思に基づいて人や社会に向けられる公益的な活動です。参加する人がさまざまな活動を通して自分を見つめ直し、新たな自分を発見し、新たな人と出会い、共感し、自分自身を育てる活動です。

ボランティアの基本的要素は、以下のようにまとめることができます。

①自主性（自発性、主体性）

誰かに強制されて活動するものではなく、自分自身が主体的に考え、自分の意志のもとに実践することをいいます。

②社会性（公益性、福祉性）

活動は、常に社会の福祉向上に向けられるべきです。

③無報酬性

収入を得るための活動ではありません。お金では得られない喜びや感動、出会いを得る活動です。

④継続性

活動者自身の可能な範囲で活動します。計画的に、継続性をもって活動しましょう。

⑤開拓性（先駆性）

地域や社会が何を求めているか、何が課題とされているのかを考え、自分たちのよりよい暮らしを創りあげていく活動をいいます。

本計画で対象とするボランティア活動は、上記の基本的要素を満たし、地域の福祉課題の解決のために展開される活動であり、地域住民が自ら率先して取り組む活動です。

本計画のボランティア活動は、個人の利益を目的とすること、宗教の教義を広めることや政治の主義を推進することは対象としません。

2 ボランティアセンターとは

「センター」とは、人が集まる場所であり、交流の拠点となることを意味しています。ボランティアセンターは、ボランティアについて、さまざまな思いや背景をもった地域住民が日常的に集い、出会いや学びあえるような拠点づくりを推進しています。

ボランティアに関する意識啓発のための情報発信をはじめ、活動に関する情報提供や相談、活動への支援、グループ間のネットワークづくりを行っています。

ボランティアセンターの主な業務

①相談支援

ボランティア活動を行いたい人や、ボランティアを頼みたい人の相談に応じ、希望に合った活動を一緒に考え紹介しています。また、センターにボランティア登録したグループ、個人への活動支援を行っています。

②援助

登録グループに対して資金的援助をしています。
活動場所の提供（ボランティアセンターの開放）をしています。

③情報の収集・提供

市内の福祉施設、団体やボランティアグループなどの情報、ボランティア活動に必要なさまざまな情報を収集して、掲示板や広報紙、ホームページなどでお知らせしています。

④啓発活動

ボランティア団体の協力を得ながら、福祉まつりを開催しています。また、広報誌やSNSなど各世代に合わせた情報発信をしています。

⑤研修活動

ボランティアをより多くの人に理解していただき、参加していただくために各種ボランティア養成講座を開催しています。

⑥連絡調整

ボランティア活動円滑化のために、福祉施設、団体、学校などと連絡調整を行っています。

⑦基盤整備

ボランティア活動の場所の提供や、ボランティア活動に必要な機器・図書などの無料貸し出しを行っています。

⑧安全対策

万が一の事故などに備えて、ボランティア保険の加入窓口を設けています。

⑨福祉教育の支援

学校で行われる福祉の体験授業（福祉実践教室）に加え、より効果的な授業が行われるよう事前の学習や事後の学習を含めた福祉教育プログラムを実施しています。

上記の①～⑨の業務を遂行するため、ボランティアセンターには、ボランティアコーディネーターやボランティアアドバイザーの配置が必要です。

《ボランティアコーディネーター》

ボランティア活動を行う人々が活動しやすい環境・体制の整備、活動の支援を行う専門職。ボランティアをお願いしたい人、ボランティア、ボランティアグループの活動に関するニーズを受け止め、その充足を図るために、活動やプログラムの企画・開発をします。また、ボランティア活動に参加したい人、ボランティアの支援を求める対象者、ボランティアの支援や参加を求める専門職・組織・団体等への仲介・調整等を行います。

《ボランティアアドバイザー》

自らの経験を活かして同じボランティアの立場で相談や助言をしたり、ボランティア活動への参加のきっかけをつくったり、情報提供などを気軽に身近で行う人。自分自身もボランティア活動をしながら、これから「ボランティア活動してみたい」という人や、すでにボランティア活動を行っている人に対して、適切にアドバイスをします。

本計画では、第3章において第3次推進計画で掲げている各事業の実施状況について触れ、近年の社会情勢や福祉施策の動向も含めて課題を考察します。第4章、第5章において、今後の目標や方向性、取り組み内容について方策を示しています。

第3章

ボランティア活動 推進に関する現状と課題

1 第3次推進計画の取組状況

ボランティアセンターでは、第1次推進計画で11の項目とスローガンを、第2次推進計画では4つの取り組みの柱と9つのテーマ、第3次推進計画では第2次推進計画から引き継いだ4つの取り組みの柱と12のテーマを掲げ、さまざまな取り組みを実施してきました。各事業の取り組み状況やボランティア団体などに行ったアンケート調査を振り返りつつ、社会情勢や福祉施策の動向を踏まえたボランティアセンターにおける課題を示します。

【取り組み状況の評価基準】

- …計画通り実施した
- …計画を変更して実施した
- △…実施に向けて行動した
- ×…実施や実施に向けて行動できていない
- コ…新型コロナウイルス感染症の影響があった

(1) 総合的な推進施策

① ボランティアセンターの情報発信

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
ボランティア情報誌『neco』の配布先や部数の検討	ボランティア活動者、依頼者への双方向の情報発信を意識した広報誌を隔月約900部発行し、病院や福祉施設に加え社会貢献企業などに発信した。	○
	情報誌を見ていただける方の増加に伴い、様々な視点で有意義な情報誌にしていく工夫が必要である。	
「ふれあいのまち岡崎」の活用	ボランティア講座等で情報誌の効果を調査し、発行部数を調整した。また、LINEで発信することで情報誌に関するご意見や感想が多く寄せられた。	○
	手に取られていない情報誌の数を明確に把握する必要がある。	
「ふれあいのまち岡崎」の活用	登録団体の紹介誌として、施設や学区福祉委員会などの依頼の調整、個人ボランティアの活動先情報として活用した。	○
	文字での情報が多く、情報を見つけづらいため、紹介の方法を検討する必要がある。	

ホームページの活用	<p>ホームページを随時更新し、旬な情報を提供した。</p> <p>-----</p> <p>ホームページが見つらいため、分かりやすいホームページにする必要がある。</p>	△
Facebook、Twitterの活用	<p>Facebook、Twitterによる旬な情報を配信した。フォロワーは約1,100名になる。</p> <p>-----</p> <p>こちらからのフォローは原則行わないルールで運用しているため、フォロワーが少ない。</p>	○
	<p>災害時の情報発信用に災害ボランティア支援センター用のFacebookページをいつでも公開できるよう準備を整えた。</p> <p>-----</p> <p>災害時に担当者以外の職員でも使えるようにするための準備が必要である。</p>	○
啓発事業の効果測定の実施	<p>ボランティア相談や講座のアンケート等で、広報媒体等の啓発効果を調査した。</p> <p>-----</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で講座が予定数実施できなかったため、効果測定としては不十分であった。継続して効果測定する必要がある。</p>	○ コ
ボランティアセンター公式LINEアカウントの活用	<p>ボランティアに関する情報発信やボランティアコーディネートに活用した。</p> <p>-----</p> <p>登録者数が少ないため、ボランティアに登録のメリットを知っていただく機会を作る必要がある。</p>	○
二次元コードの活用	<p>ボランティアセンターからの各種発行物に二次元コードを載せ、ホームページやSNSに気軽にアクセスできるようにした。</p>	○



Facebook



Twitter



公式LINE

②福祉の啓発

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
福祉まつりの開催	福祉やボランティア活動を楽しみながら知っていただく機会として一人でも多くの地域住民に会場してもらえるよう、イベントを実施した。また、ボランティア、福祉団体のみならず、民間企業等の社会貢献の場として活用されるよう計画した。 市社協事務所の移転に伴い、社会福祉センターでの開催についても検討する必要がある。	○ コ
新たな福祉イベントの創出	大型店舗等の人々がにぎわう場所において、ボランティア活動や福祉活動のPRが行えるようイベントの実施を予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。	× コ
各種イベントでの福祉啓発	市内で行われる各種イベントに参加し、ブースの待ち時間や休憩スペースでボランティア体験などを行い、福祉啓発と福祉に触れるきっかけを作る予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。 各種イベントの主催者に対してイベント企画中に趣旨や内容を提案できるように、イベント情報の収集をするなど準備しておく必要がある。	× コ

(2) 担い手の育成

①福祉関係ボランティアの養成

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
ボランティア入門講座	テーマを限定しないボランティアの入門講座をボランティア連絡協議会と連携し実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。 講座の実施についてボランティア連絡協議会と一緒に検討し、連携を取りながら準備を進める必要がある。	△ コ
各種ボランティア養成講座	ボランティア活動者の増加を図るため、趣味や楽しみ、特技の内容とボランティア活動を関連付けた養成講座を実施した。 新型コロナウイルス感染症の影響で毎年の実施には至らなかったが、状況、内容に応じてオンラインでの講座など検討する必要がある。	○ コ

② ボランティア活動者への支援

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
ボランティアリーダー養成講座	<p>ボランティア団体のリーダーとなる人材の養成は学区福祉委員会と共通の課題のため、地域福祉リーダー養成塾として講座を実施した。また、講座修了者が継続して学びや団体間の交流が図れるよう検討した。</p> <p>受講希望者数が少ないため啓発に力を入れたい。また、講座修了後の効果測定が十分でない。</p>	○
ボランティア連絡協議会の支援	<p>ボランティア連絡協議会の役員会、定例会等に職員が参加し、各種事業について側面的支援を実施した。</p> <p>役員との情報共有や連携が十分でない。</p>	○
個人登録者へのフォローと支援	<p>個人登録ボランティアが継続的にボランティアとして活動してもらえるよう、定期的にLINE等を活用した情報発信を行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア活動者の登録が少なかったこともあるが、LINE登録者を増やせるようにPRに力を入れたい。</p>	○ □
	<p>求職期間中の人や精神疾患のある人がボランティア活動を希望する場合には関係機関に情報提供を求めるなど、その人自身を支援するよう連携を図る予定であったが、対象のボランティアの相談はなかった。</p>	□
ボランティア活動に関する資金支援	<p>ボランティア団体の運営にかかる補助金要綱の見直しを行った。また、会員獲得のための講座の実施や、スキルアップのための研修参加費用等の支援に加え、民間の補助金などの情報提供を行った。</p> <p>講座の主催に自信のない団体等が補助金について気軽に相談できる機会を意図的に作る必要がある。</p>	○



地域福祉リーダー養成塾

③ テーマ型×地縁型のボランティア

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
テーマ型組織と地縁型組織の協働促進	<p>両組織が一緒に一つの事業に取り組むよう、ボランティアセンターに登録している団体と学区福祉委員会の情報交換等の機会を設ける予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。</p> <p>各組織の役員に変更等があり、継続した内容での話し合いが難しい状況である。</p>	△ コ
テーマ型・地縁型ボランティア入門講座	<p>居住地に近いところを会場にして講座を実施することにより、より多くの方の参加意欲を高めるため、テーマ型組織と地縁型組織が協働してボランティア入門講座を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。</p> <p>特定の地域住民を対象にした講座を行う際のテーマ型ボランティアの関わりが難しい。</p>	△ コ



テーマ型組織×地縁型組織の情報交換会

④福祉教育

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
福祉教育プログラム活用	<p>複数時間をかけて取り組む福祉教育プログラムを、多くの小・中・高等学校で実施した。コロナ禍ではあるが、年々実施校が増加している。</p>	○
	<p>授業回数の増加に伴い、講師の稼働も多くなるため、講師不足になることが予想される。講師の養成をしていく必要がある。</p>	
福祉実践教室の実施	<p>障がい当事者やその支援者を学校へ講師として派遣し、児童・生徒に体験型の授業の機会を提供した。小・中・高等学校など多くの学校で授業を実施した。</p>	○
	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により総合学習の時間の減少や講師の受入が難しい等で実施が少なかったため、オンラインでの開催など実施可能な方法を講師や学校と調整する必要がある。</p>	
福祉実践教室教員向け研修会	<p>福祉実践教室の必要性を訴えることで福祉実践教室に取り組む学校数が増加するよう、実施のない学校を訪問する予定であったが、実施できなかった。</p>	×
	<p>多くの学校で福祉実践教室や福祉教育プログラムを実施し、子どものころから福祉に触れる機会を作るためには、福祉教育専任の職員が必要である。</p>	
福祉実践教室教員向け研修会	<p>学校で行われる福祉実践教室をより充実したものにするため、教員向けの研修会を実施した。</p>	○
	<p>参加者が少ない状況が続いているため、多くの教員に参加していただけるよう啓発に工夫が必要である。</p>	

<p>福祉教育推進校事業</p>	<p>市内の小・中・高等学校を対象に福祉の学習に対する資金支援を実施した。また、活動の発展を図るため、学校での取り組みを学校間で共有できるようにしている。</p>	<p>○</p>
	<p>学校間で取り組みを共有できるようにしているが、どのように活用されているかの検証ができていない。</p>	
<p>地域での福祉教育推進</p>	<p>福祉教育で学んだ児童・生徒が講師団体と一緒に保護者や地域住民に福祉体験会を行い、児童や生徒の学びを深めるとともに、地域住民が地域で支えあえるよう地域住民に向けた福祉教育の機会を設ける予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。</p> <p>福祉実践教室や福祉教育プログラムを実施した学校と、その学区の福祉委員会などと協力して実施する必要があるため、調整が難しい。</p>	<p>× □</p>



福祉教育プログラム 聴覚障がい（手話）の授業



福祉実践教室 車いす体験

⑤福祉分野の個別課題へのアプローチ

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
在宅の傾聴ボランティア活動	在宅で生活する高齢者に対し、在宅での傾聴ボランティア活動をコーディネートした。	○
	市社協の介護関係部署と地域包括支援センターを中心にボランティア依頼を受け付けているが、活動の情報が広まると依頼が急増することが予想される。	
在宅の傾聴ボランティアが充足するように養成講座を実施した。	市内各地からの依頼に対してボランティアが不足しており、継続的に養成する必要がある。	○
	外出支援ボランティアの養成講座	
在宅で活動できるボランティアの養成とコーディネート	車両を使用した送迎などが求められるため、対応を考える必要がある。	×
	在宅でのボランティアニーズに対応するため、在宅で活動できるボランティアを養成する予定であったが、実施できなかった。	
在宅で活動できるボランティアの養成とコーディネート	在宅ボランティアが安心して在宅での活動を進められるよう活動ルールを定め、活動をコーディネートした。	○
	在宅での活動を行う団体が少ないため、既存の団体と相談していく必要がある。	



在宅傾聴ボランティア養成講座

⑥企業の社会貢献

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
企業の社会貢献活動の参加促進	<p>企業との協働、社会貢献事業への参加を支援するため、積極的なアウトリーチ活動を行った。</p> <p>実際に社会貢献活動に取り組む企業とのつながりの増加をめざし、継続して啓発していく必要がある。</p>	○
企業の社会貢献リーフレットの配布	<p>企業の社会貢献活動を推進するため、社会貢献活動のモデルや取り組みやすい内容を記載したリーフレットを配布した。</p> <p>市社協が取り組むファンドレイジングと連携した新たなリーフレットの作成が必要である。</p>	○



企業の出張講座

(3) ボランティアセンターの機能強化・拡充

① ボランティアが活動しやすい環境づくり

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容 課題	取組状況
受入側の研修会の実施	<p>ボランティアを受け入れる側の施設等の職員に対し、ボランティアを正しく理解し、スムーズな受け入れがされるよう研修会を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で依頼施設が減少しているため、これまで依頼のあったボランティアの受け入れについてヒアリングしていく必要がある。</p>	× コ
福祉施設向けボランティア受入のポイントをとめたリーフレットの配布	<p>ボランティア依頼のある施設に対し、ボランティアにとっても施設にとっても充実した時間になるよう、リーフレットを配布する予定であったが、配布できなかった。</p> <p>これまでも依頼に対してボランティアが少なかったことからリーフレットの配布を制限していたが、今後は依頼状況とボランティア活動者のバランスを見て配布する必要がある。</p>	× コ



② ボランティアセンターの環境整備

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
皆が気持ちよく利用できるセンターの運営	<p>多くの団体の活動に必要となるパソコン、印刷機等の整備や利用のルールを定め、開館時にはいつでもボランティアが使うことができるようにしている。また、団体から要望の多いカラーコピーや拡大印刷をできるようにした。</p> <p>カラーコピーや拡大印刷などの有料機器については利用頻度などを検証し、料金設定などの見直しが必要である。</p>	○
学生が立ち寄りやすいセンターの運営	<p>大学生などが立ち寄りやすいボランティア活動の拠点として、センター内のBGM等で和やかな雰囲気にするのを心がけた。</p> <p>市社協の事務所が移転したことにより、学生が立ち寄りづらい場所になってしまったため、学生が立ち寄る企画を考える必要がある。</p>	□
相談拠点の増設	<p>現在、ボランティアセンターは社会福祉センター1か所に留まっているが、より身近なところで相談対応できる機会を設けるため出張相談を開催した。</p> <p>出張相談の相談件数や内容を鑑みて、今後の相談窓口の在り方についての検討が必要である。</p>	○
ボランティアセンター移転に伴う環境整備	<p>社会福祉センターへの事務所移転に伴い、ボランティア団体や個人ボランティアが活動や相談のしやすい環境を整備した。</p>	○



ボランティアセンターふれあいルームの活動機器

③ 専門性を活かしたコーディネート

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容	取組状況
	課題	
職員のスキルアップ	<p>地域福祉を推進する担い手、福祉ボランティアの相談者として、社会福祉士や社会福祉主事などの専門的な資格を取得し、専門性の向上に努め、相談に対して適切で的確なコーディネートができるよう積極的に研修等に参加した。</p> <p>さまざまな視点でコーディネートできるよう福祉に関する知識のみでなく、多様な知識を身に付けていく必要がある。</p>	○
福祉の視点を持つコーディネート	<p>個人からのボランティア依頼に対して、アセスメントから丁寧に対応し、生活課題の解決が図れるよう、相談者の困りごとに寄り添ったコーディネートをした。また、必要に応じて専門機関等と意見交換しながら調整を図った。</p> <p>公的なサービスが無く、ボランティアでも対応が難しい相談について、市社協としてできることを考えていく必要がある。</p>	○
関係機関との連携	<p>福祉分野におけるインフォーマルサービスの提供機関として行政や福祉事業所等との連携を深めた。</p>	○
ニーズ調査の実施	<p>高齢者や障がい者に関する事業所等に対し、ボランティア講座のプログラムやボランティアセンターの在り方を検討するためにアンケート調査を実施した。</p> <p>回答方法を返信封筒からフォームに変更したことで回答が少なかったため、次回の調査時には調査方法の検討が必要である。</p>	○



(4) 災害時のボランティア活動

① 災害時に向けた体制整備

【取組内容と評価】

取組項目	取組内容 課題	取組状況
災害ボランティアコーディネーター養成講座	<p>災害時に岡崎市災害ボランティア支援センターでのボランティアスタッフとしての活動や、地域でスムーズにニーズ調査や現地調査ができる人材を養成した。</p> <p>講座の中で地域でのニーズ調査や現地調査については演習などを行う時間が取れないため、学びの機会を考える必要がある。</p>	○
災害ボランティアコーディネーターフォローアップ研修	<p>市社協に登録している災害ボランティアコーディネーターを対象に、スキルの上やモチベーションの維持を図るための研修会を開催した。</p>	○
災害ボランティア支援センター開設・運営訓練	<p>地域支援者にも参加を呼びかけ、有事の際のボランティアの受け入れがスムーズにできるよう受援力の醸成を図るため、災害ボランティア支援センター開設・運営訓練を実施した。また、コーディネーターのスキルアップを図ると共に、市、市社協、ボランティア団体の連携を強化した。</p> <p>訓練の実施回数の増加を図りたいが、会場都合で難しいのが現状のため検討が必要である。</p>	○
協定締結団体連絡会議	<p>災害ボランティアの受け入れ態勢整備等に関する協定を締結している7者間で、年1回会議を開催し、情報交換、意見交換をしながら顔の見える関係作りに取り組んだ。</p>	○
災害ボランティア支援センター開設・運営マニュアルの見直し、在り方の検討	<p>市の大規模災害時の対応に合わせた災害ボランティア支援センターの開設や運営方法、拠点を見直し、災害ボランティアコーディネーターがそのノウハウを効果的に活かせる方法、配置等を踏まえたマニュアルを策定した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で訓練が十分に行えなかったため、コーディネーターへの説明や訓練を繰り返し行う必要がある。</p>	○
登録コーディネーター専用公式LINEアカウントの活用	<p>災害時に登録コーディネーターと市社協がスムーズに連絡を取ることができ、各被災現場でのニーズ聞き取りや現地調査を円滑に進めるために、登録コーディネーター専用の公式LINEアカウントを活用した情報発信や訓練を行った。</p> <p>Googleフォームとの併用を考えているが、より最適な方法を模索していく必要がある。</p>	○

<p>災害時のニーズや災害ボランティアの情報管理</p>	<p>災害時のニーズの進捗や依頼者の情報管理、専門機関へのマッチングなどを円滑に行うため、顧客管理システムSalesforceでの情報管理を検討した。</p> <p>活用の準備はできているが、職員が使いこなせるように準備しておく必要がある。</p>	<p>○</p>
------------------------------	--	----------



災害ボランティアコーディネーター養成講座

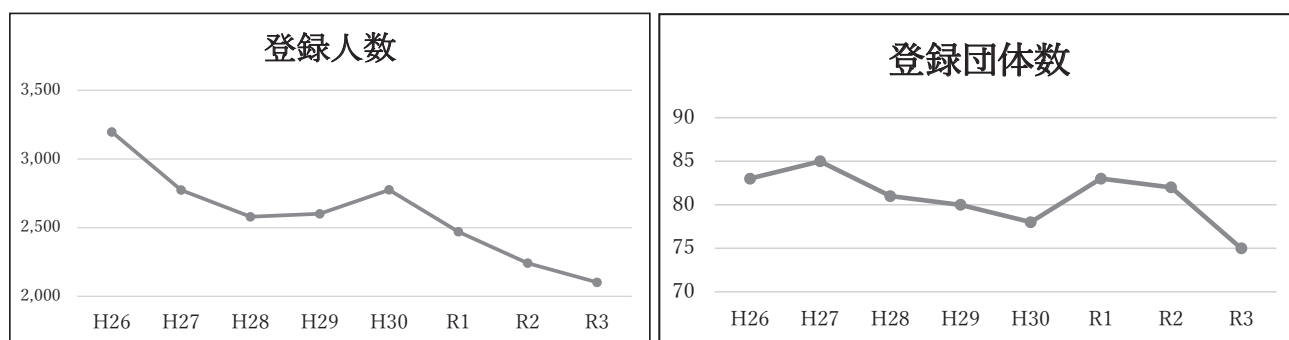


災害ボランティア支援センター開設・運営訓練

2 ボランティア活動の現状と課題

① ボランティアの登録状況とアンケート結果から

令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ボランティアセンターの登録状況は、団体数、登録者数ともに減少しています。個人ボランティアについては、年間250名～300名程度の登録があったところ、年間100名に満たない登録者数となっています。



登録ボランティア団体に対するアンケート調査の結果によると、ボランティア団体の課題として「会員の不足、新会員の確保」の回答が、平成30年度のアンケートから変わらず大きな割合を占めています。

また、今回の調査では「会員の技術、能力向上」を回答する割合が高くなりました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ボランティア依頼やイベントなどでの活動が減少しているため、アフターコロナやウィズコロナに向けた準備に力を入れたい団体が増えているようです。

それらの課題解決に向け市社協に期待することとしては、平成30年度のアンケートに引き続き「人材育成に関する支援 講座・研修会の実施」が高い割合を占めています。また、「活動場所の提供、会場使用料の助成」についても多くの団体から挙げられています。

介護事業所に勤務する職員を対象にしたアンケート結果によると、ボランティアセンターの存在を知っているのは60%程度となっています。また、アンケートの詳細を見ると、在宅でのボランティア支援や通院、買い物等の外出支援など、フォーマルサービスでは取り扱うことができない生活課題を解決するための活動や、サービスの利用限度を超える部分への支援にボランティアを求めていることがわかりました。ニーズに合わせたボランティア養成に向けて、取り組みを進めていく必要があります。

また、引き続き市民や福祉施設の職員に対し、ボランティアを正しく理解してもらい、ボランティアセンターの役割や機能を周知する必要があります。

ボランティアの人材養成のみならず、そのボランティアを活用する側の養成、支援する側とされる側双方の視点を持つことが大切です。

②近年の社会情勢

全世界に影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症の拡大は、生活の困窮や外出の機会の減少など私たちの生活に大きな変化をもたらしました。人との関わりが制限される中、ただ収束するのを待つだけではなく、ウィズコロナの活動を進めていく必要があります。

日本は超高齢化社会であり、団塊世代が後期高齢者となる2025年問題を目前に控えていますが、総人口や生産年齢人口が減少するなか、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年問題についても考えていかなければなりません。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、外国人労働者は以前と比べると減少していますが、今後は更なる増加が予想され、さまざまな国から多様な文化を持った人たちが集まります。互いの文化を認め合い、安心して生活していくことができるように多文化共生の取り組みも必要になります。

また、子どもの貧困や不登校、ヤングケアラーについても問題になっています。子ども食堂や学習支援といった子どもの支援活動は各地で広がっていますが、表面化しづらいヤングケアラーの問題についても取り組みが必要です。

さまざまな地域課題があるなか、気軽に集まることができたり、同じ悩みを持つ人達が相談や悩みを共有したりする地域の居場所づくりが必要です。

2015年に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の関心も深まり、企業が地域のために社会貢献活動を行っています。企業や職員が業務とは別に地域のために活動することも大切ですが、事業を通してさまざまな地域課題の解決に繋がるよう事業展開していくことが求められています。

③ボランティアを取り巻く地域課題

ボランティアのニーズも個人からの依頼が徐々に増えて多様化するなか、一方でボランティアも団体には加入せず、個人として活動を希望する人が増えてきています。これら一つひとつをコーディネートすることは、時間も福祉の専門性も要し、ボランティアの活動実績に量より質、生活の質の向上に重きを置いたコーディネーション能力が求められ、場合によっては他機関へ繋ぐことができるネットワークも必要となります。

近年の社会情勢にも挙げた新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域福祉活動やボランティア活動に関しても十分な活動を行うことができず、支援を求める人も活動したい人も苦しい状況になっています。ボランティア支援の方法や関わり方を模索しながら支援を進める必要があります。

また、子どもの孤食や居場所づくりについては岡崎市内でも子ども食堂の立ち上げが増えつつあり、食料や物品、人材などを提供する社会貢献企業、運営や管理を支援する多くのボランティアを必要としています。

また、精神障がい者の地域移行支援や高齢者の地域包括ケアシステムなど、地域支援が進められる状況であるため、ボランティアの需要も高まってきます。学区福祉委員会などの地縁型ボランティアと専門性のあるテーマ型ボランティアが力を合わせて地域で支援を必要とする人達を支えていく必要があります。

さまざまな地域課題があるなか、ボランティアセンターとしてウィズコロナやアフターコロナを意識して取り組むべき内容や取り組み方法を模索し、課題解決のためにボランティアの養成や活動の展開をしていく必要があります。

第4章

ボランティア活動推進の 基本的な考え方

1 基本理念

みんなで築く ホットなまち 生き生きと暮らせる 支えあいのまち

本計画は、第4次岡崎市地域福祉計画の実現に向け、ボランティアセンターの役割や機能を明確にし、今後の方向性を定めるために策定する計画であるため、本計画の基本理念は、第4次岡崎市地域福祉計画の基本理念である「みんなで築く ホットなまち 生き生きと暮らせる 支えあいのまち」とします。

2 基本目標

子どもから大人まで…みんながボランティアマインドに満ち溢れたまち

ボランティア活動は、特定の人が行う特定の活動ではありません。その原点は、他人を思いやる気持ちや地域社会の一員であることの自覚であると言えます。

子どものころから人を尊重し、思いやりのある優しい心を育て、自分のためだけでなく、人のため、社会のために活動することの素晴らしさを知る機会があることが大切です。ボランティア活動という行動に移すには、人それぞれのライフステージの状況や環境にもよるところが大きいです。機会さえあればボランティア活動、社会向上のための貢献活動に参加できるよう、学習の場、活動の場を提供していきます。

3 取り組みの3つの柱

1 『ボランティア活動が充実し、活性化していく社会にしましょう』

福祉のことやボランティアセンターの役割や機能を啓発し、地域住民や関係機関に利用される存在になり、ボランティア活動が活性化するよう推進します。

また、福祉施策や社会情勢が変化するなか、ボランティアセンターに期待される役割も少しずつ変化しており、従来以上に福祉に関する専門知識を必要とするコーディネートが求められるようになってきました。それらに対応するため職員の専門性を高めることや窓口の増設を検討するなど数多くの相談に対応できるよう強化を図ります。

2 『すべての人が支え合い、共に生きる社会にしましょう』

地域課題が多様化し、支援の幅が広がるなかで、地域で支援するボランティアや企業の力が必要になります。

市社協ボランティアセンターには、多くの団体が登録し、福祉の活動に取り組んでいます。しかし、次世代のリーダーの担い手不足や会員不足など人材確保に苦慮している団体も少なくありません。

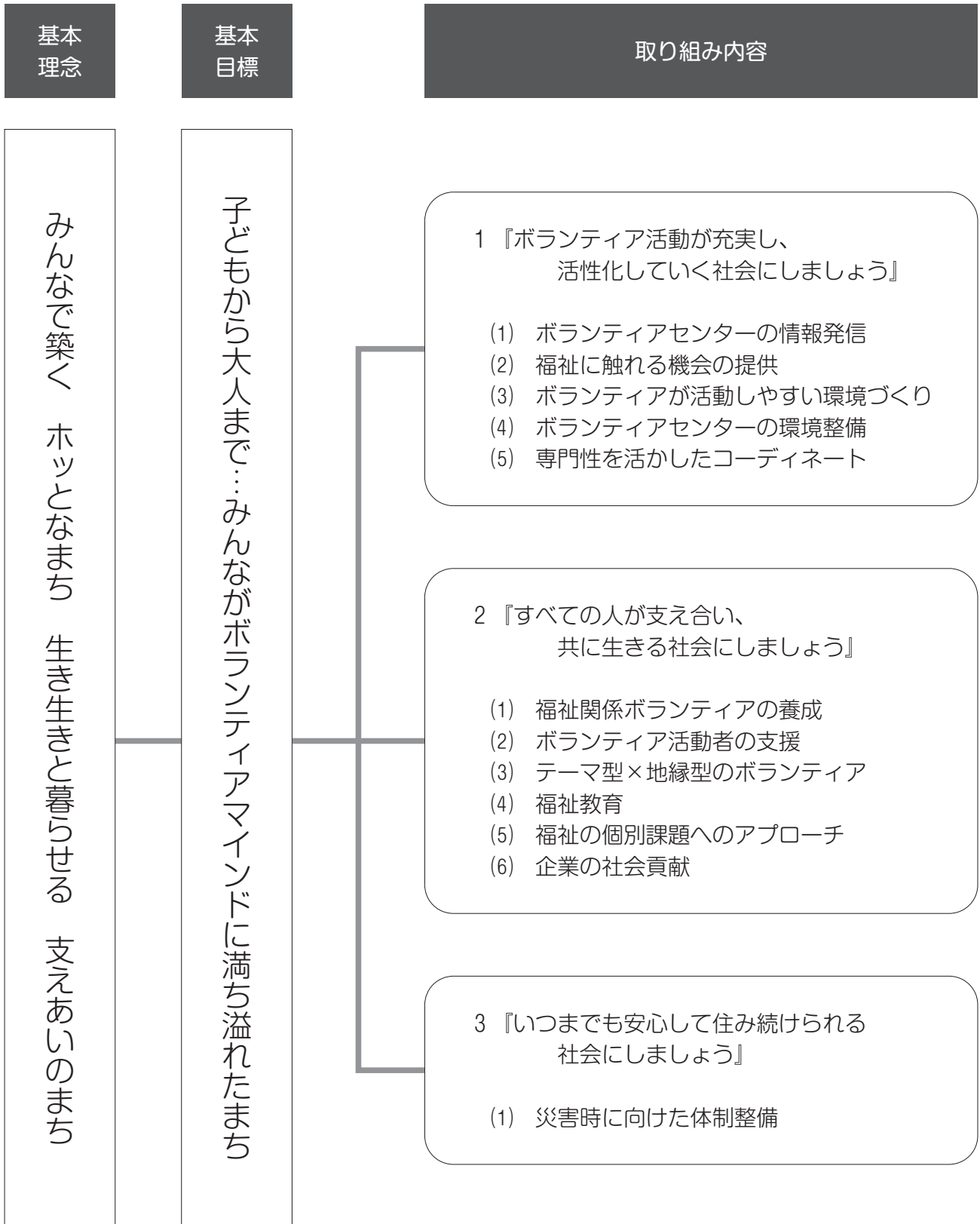
支援する、支援される、ではなくすべての人が支え合い、共に生きる社会になるよう人材養成や活動者の支援に取り組みます。

3 『いつまでも安心して住み続けられる社会にしましょう』

近年では、大規模な自然災害が多数発生しており、多くのボランティアが活躍し、大規模災害からの早期復興にボランティア活動はなくてはならないものとなっています。

災害時にボランティアの力を最大限に発揮してもらうため、活用するためにはどのような準備が必要かを関係機関と協議し、また、過去の大規模災害の事例を参考にしながら、支援の側と受援の側の双方の視点で体制の準備を進めます。

4 施策の体系



第5章

ボランティア活動 推進に向けた施策

1 ボランティア活動が充実し、活性化していく社会にしましょう



(1) ボランティアセンターの情報発信

事業・活動	取組内容	方向性
動画配信によるボランティア啓発	○ボランティアセンター登録団体を中心とする紹介動画を作成し、SNS等で広く市民に活動を知っていただく機会を作ります。	新規
ボランティアセンター紹介パンフレットの作成と配布	○ボランティアセンターの活動を多くの方に知っていただき、有効的に活用していただけるようパンフレットを作成、配布します。	新規
ボランティア情報誌『neco』の配布先や部数の検討	○隔月発行しているボランティア情報誌『neco』の内容をボランティアしたい人、求める人の双方向の情報提供を心がけます。 ○『neco』の啓発効果を測り、配布先や部数の検討を行います。また、 LINEなどのSNSを活用し、ペーパーレス化を図るとともに、より多くのかたに読んでいただけるように 心がけます。	充実 拡大
ホームページの活用	○ホームページやブログにより、旬な情報提供を継続的に行います。また、 見やすいホームページを意識して見直しを行い、大幅な修正 を加えます。	充実 拡大
「ふれあいのまち岡崎」の活用	○社協ボランティアセンターに登録する全ての団体の活動を紹介する冊子を、地域住民に適宜配布することにより、団体の紹介やボランティア活動のコーディネートに活用していきます。	継続
Facebook、Twitterの活用	○Facebook、Twitterによる旬な情報をそれぞれの媒体に合わせて配信します。	継続
ボランティアセンター公式LINEアカウントの活用	○公式LINEアカウントを活用し、個人ボランティアが活動に参加しやすい情報発信とコーディネートをします。 ○ボランティアに関心があるかたに講座の情報やボランティア募集などボランティアに関する情報を発信します。	継続
二次元コードの活用	○ボランティアセンターからの各種発行物に二次元コードを載せ、ホームページやSNSに気軽にアクセスできる環境を作ります。	継続

(2) 福祉に触れる機会の提供

事業・活動	取組内容	方向性
各種イベントでの福祉啓発	○市内で行われる各種イベントへ参加し、ブースの待ち時間や休憩スペースでボランティア体験などを行い、福祉啓発と福祉に触れるきっかけを作ります。	充実 拡大
福祉啓発イベントの実施	○福祉やボランティア活動を楽しみながら知っていただく機会として一人でも多くの地域住民に会場してもらえよう、内容、時期、場所等を来場者目線で考え、より有効なイベントにします。 ○ボランティア、福祉団体のみならず、民間企業等の社会貢献の場として活用されるよう参加を働きかけます。	充実 拡大

(3) ボランティアが活動しやすい環境づくり

事業・活動	取組内容	方向性
ボランティア活動者の施設見学会実施	○ボランティア活動者が安心してボランティア活動の一步を踏み出せるよう、ボランティア活動希望者を対象とした施設の見学会を開催します。	新規
受入側の研修会の実施	○ボランティアを受け入れる側の施設や事業所職員に対し、ボランティアを正しく理解し、スムーズな受け入れがされるよう研修会を実施します。 ○ボランティアコーディネートを充実させるため、施設職員による施設内ボランティアコーディネーターの養成に向けて準備を進めます。	充実 拡大
福祉施設向けボランティア受入のポイントをまとめたリーフレットの配布	○ボランティア依頼のある施設に対し、ボランティアにとっても施設にとっても充実した時間になるよう、リーフレットを配布します。	継続

(4) ボランティアセンターの環境整備

事業・活動	取組内容	方向性
皆が気持ちよく利用できるセンター	○多くの団体の活動に必要な パソコン、印刷機等の整備を継続的に行い、開館時にはいつでもボランティアが使えるような体制を維持 するため、利用のルールを理解を徹底します。	充実 拡大
学生が立ち寄りやすいセンター	○学生が立ち寄りやすいボランティア活動の拠点として、BGM等で和やかな雰囲気 <small>を</small> することを心がけます。 ○ 学生がボランティア活動に取り組みやすいよう学生同士の繋がり<small>の</small>場を提供 します。	充実 拡大
相談拠点の増設	○現在、社協のボランティアセンターは社会福祉センター1か所にとどまっていますが、出張相談の開催をするなどして、より身近なところで相談対応できる機会を設けるよう努めます。 ○社会福祉センター以外にも社協ボランティアセンターが設置できるよう市に対して協力を求めています。	継続

(5) 専門性を活かしたコーディネート

事業・活動	取組内容	方向性
職員のスキルアップ	○福祉ボランティアの相談者として専門性の向上に努め、相談に対して適切、的確なコーディネートができるよう積極的に研修等に参加します。 ○社会福祉士、社会福祉主事など福祉の専門的な資格を取得し、地域福祉推進の担い手としての知識や技術の向上に努めます。	継続
福祉の視点を持つコーディネート	○個人からのボランティア依頼に対してもアセスメントから丁寧に対応し、共に生活課題の解決が図れるよう、相談者の困りごとに寄り添います。 ○生活課題の解決やボランティアを求める方のQOLの向上のため、ボランティアだけでなく、専門機関等とのネットワークの構築に積極的に取り組みます。	継続
関係機関との連携	○福祉分野におけるインフォーマルサービスの提供機関として行政、福祉事業所等と連携します。	継続
ニーズ調査	○高齢者や障がい者に関する事業所等に対し、ボランティア講座のプログラムやボランティアセンターの在り方を検討するためにアンケート調査を実施します。	継続

2 すべての人が支え合い、共に生きる社会にしましょう



(1) 福祉関係ボランティアの養成

事業・活動	取組内容	方向性
ボランティア活動のバリアフリー化	○支援する側・される側に分けるのではなく、これまで支援を受けていた人にもボランティア活動に取り組んでいただけるようボランティア養成講座を実施します。	新規
ボランティア入門講座	○テーマを限定することなく「ボランティアとは…」の入門講座を実施し、 初めの一步、活動へのきっかけとなる講座を開催します。	充実 拡大
各種ボランティア養成講座	○ボランティアへの興味があまりない方にもボランティア活動を始めるきっかけを提供できるよう、 趣味や楽しみの内容とボランティア活動を関連付けた養成講座を実施します。 ○効果的、継続的に活動できるボランティアを養成するため、活動の時間帯や活動者の年齢層に合わせたボランティア養成講座を実施します。	充実 拡大

(2) ボランティア活動者への支援

事業・活動	取組内容	方向性
ボランティア団体のリーダーを担う人材の養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア団体の代表者を務める人材の養成を目的に講座を定期的に実施します。 ○講座修了者が各団体の後継者となるよう、講座終了後にもフォローできる体制を作ります。 	充実拡大
個人登録者へのフォローと支援	<ul style="list-style-type: none"> ○個人登録ボランティアに対し、定期的にLINE等を活用した情報発信をし、継続的にボランティアとして活動してもらえようフォロー体制を整えます。 ○求職期間中の人、病気や障がいのある人がボランティア活動を希望する場合には関係機関に情報提供を求めるなど、その人自身を支援するよう連携を図ります。 	充実拡大
ボランティア連絡協議会の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○市内ボランティアの最大組織であるボランティア連絡協議会が住民目線で取り組む活動を積極的に支援します。 ○役員会、定例会に職員が参加し、各種事業について側面的支援を行います。 	継続
ボランティア活動に関する資金支援	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア団体の運営にかかる費用、会員獲得のための講座の実施やスキルアップのための研修参加費用等に対し、資金の支援を行います。 ○民間企業や団体の助成金制度が団体の運営に活用されるよう積極的に情報を提供していきます。 	継続

(3) テーマ型×地縁型のボランティア

事業・活動	取組内容	方向性
地域の課題解決に向けたテーマ型・地縁型ボランティアのコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアの力を要する地域課題の解決に向けて、テーマ型・地縁型ボランティアが力を合わせて活動できるようボランティアセンターが持つ独自のネットワークを活用しコーディネートします。 	新規
テーマ型・地縁型ボランティアの入門講座と活動者交流会	<ul style="list-style-type: none"> ○より多くの人々の参加意欲を高めるために、居住地に近い地域を会場にテーマ型組織と地縁型組織が協働してボランティア入門講座を実施します。 ○テーマ型ボランティアと地縁型ボランティアの出会いの場を作り地域課題の解決に向けた情報交換会を行います。 	充実拡大
テーマ型組織と地縁型組織の協働促進	<ul style="list-style-type: none"> ○両組織が一緒になって一つの事業に取り組むよう、ボランティアセンターに登録している団体と学区福祉委員会の情報交換を行います。 	継続

(4) 福祉教育

事業・活動	取組内容	方向性
福祉実践教室の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい当事者やその支援者を学校へ講師として派遣し、児童・生徒に体験型の授業の機会を提供します。 ○実施のない学校を訪問し、福祉実践教室の必要性を訴えることで福祉実践教室に取り組む学校数が増加するよう推進します。 	充実 拡大
福祉実践教室教員向け研修会	<ul style="list-style-type: none"> ○学校で行われる福祉実践教室をより充実したものにするため、教員向けの研修会を毎年実施します。参加者数の増加に向けて啓発に力を入れます。 	充実 拡大
地域での福祉教育推進	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉教育で学んだ児童や生徒が、講師団体と一緒に保護者や地域住民に福祉体験会を行い、児童や生徒の学びを深めるとともに、地域住民が地域で支えあえるよう地域住民に向けた福祉教育の機会を設けます。 	充実 拡大
福祉教育プログラム活用	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学習等の時間を複数時間かけて取り組む福祉教育プログラムを、学校で取り組んでもらえるよう情報提供していきます。 ○学校と協働で授業づくりを行います。 ○実施校が増えると職員数や講師料が不足するため、補助が得られるように働きかけます。 ○ボランティア活動が活発に行われるよう新たなプログラムの開発に取り組みます。 	充実 拡大
福祉教育推進校事業	<ul style="list-style-type: none"> ○市内の小・中・高等学校を対象に福祉の学習に対する資金支援を行います。 ○学校での取り組みを学校間で共有できるようにし、活動の発展を図ります。 	継続

(5) 福祉の個別課題へのアプローチ

事業・活動	取組内容	方向性
在宅の傾聴ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅で生活する高齢者に対し、生活の質の向上や介護予防のために、在宅での傾聴ボランティア活動をコーディネートします。 ○必要に応じて傾聴ボランティアの実施方法や講座の内容を検討し養成講座を実施します。 	充実 拡大
外出支援ボランティアの養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者や障がい者の外出や通院の付き添いを行うボランティアを養成します。 	充実 拡大
在宅で活動できるボランティアのコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> ○在宅でのボランティアニーズに対応するため、在宅で活動できるボランティアを登録団体からコーディネートします。 ○在宅ボランティアの活動ルールを定め、活動をコーディネートします。 	充実 拡大

(6) 企業の社会貢献

事業・活動	取組内容	方向性
社会貢献企業の交流会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会貢献企業が企業同士で繋がり、社会貢献事業を発展させていく交流会を実施します。 	新規
企業の社会貢献活動の参加促進	<ul style="list-style-type: none"> ○企業との協働、社会貢献事業への参加を支援するため積極的なアウトリーチ活動を展開します。 	充実 拡大
企業の社会貢献リーフレットの配布	<ul style="list-style-type: none"> ○企業の社会貢献活動を推進するため、社会貢献活動のモデルや取り組みやすい内容を記載したリーフレットを配布します。 ○社会貢献企業が社会貢献活動に取り組んでいることを市民や他企業等からより認識されるよう仕組みづくりを行います。 	充実 拡大
企業出張講座のコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> ○企業が日頃取り組む業務の内容や専門的な知識を活かして行う企業出張講座のコーディネートを行います。 	継続

3 いつまでも安心して住み続けられる社会にしましょう



(1) 災害時に向けた体制整備

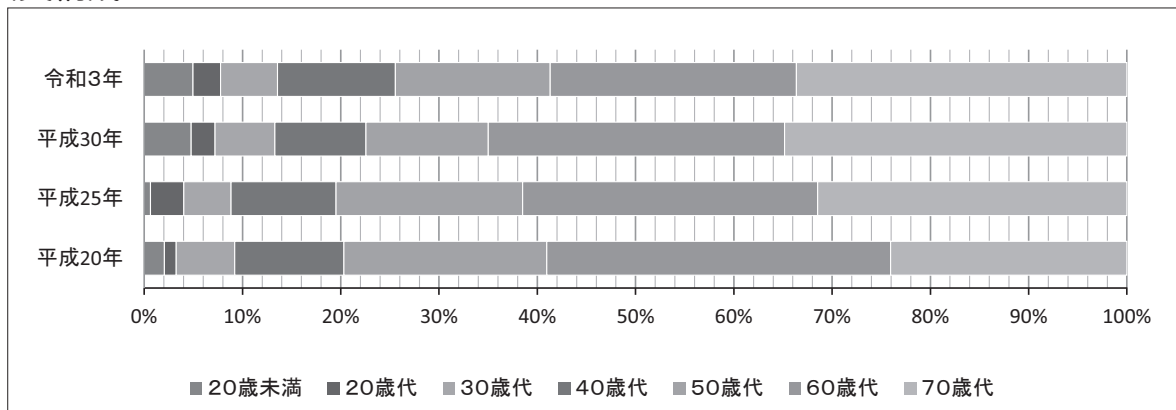
事業・活動	取組内容	方向性
災害ボランティア支援センターの紹介チラシ作成と配布	○平時から災害ボランティア支援センターの機能や役割を市民に知っていただき、災害時に有効的に災害ボランティア支援センターを活用していただけるようチラシを作成し配布します。	新規
災害ボランティアコーディネーターフォローアップ研修	○市社協に登録している災害ボランティアコーディネーターを対象に、 スキルの向上やモチベーションの維持を図るための研修会を開催します。	充実 拡大
災害ボランティア支援センター開設・運営訓練	○災害ボランティア支援センター開設・運営訓練を実施し、 地域支援者にも参加を呼びかけることにより、災害時のボランティアの受け入れがスムーズにできるよう受援力の醸成を図ります。 ○コーディネーターのスキルアップを図ります。 ○市、市社協、ボランティア団体の連携を強化します。	充実 拡大
災害時のニーズや災害ボランティアの情報管理	○災害時のニーズの進捗や依頼者の情報管理、専門機関へのマッチングなどを円滑に行うため、 情報管理ソフト等を使用した情報管理を検討します。	充実 拡大
災害ボランティア支援センターのICT化とマニュアルの見直し	○災害ボランティア支援センターのICT化について理解を深め、 新たな運営方法について模索します。 ○誰でも新たな運営方法で災害ボランティア支援センターを開設、運営できるようにマニュアルの見直しを行います。	充実 拡大
災害ボランティアコーディネーター養成講座	○災害時に岡崎市災害ボランティア支援センターのボランティアスタッフとしての活動や、地域でスムーズにニーズを収集できる人材の養成に努めます。	継続
協定締結団体連絡会議	○災害ボランティアの受け入れ態勢整備等に関する協定を締結している7者間で、年1回会議を開催し、情報交換、意見交換をしながら顔の見える関係を作ります。	継続
登録コーディネーター専用公式LINEアカウントの活用	○災害時に登録コーディネーターと市社協がスムーズに連絡を取ることができ、被災地域でニーズ収集や現地調査を円滑に進めるため、登録コーディネーター専用公式LINEアカウントを活用します。 ○運用について定期的にテストや情報発信を行います。	継続

資料編

岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター登録団体アンケート調査結果

(1) 団体・グループについて

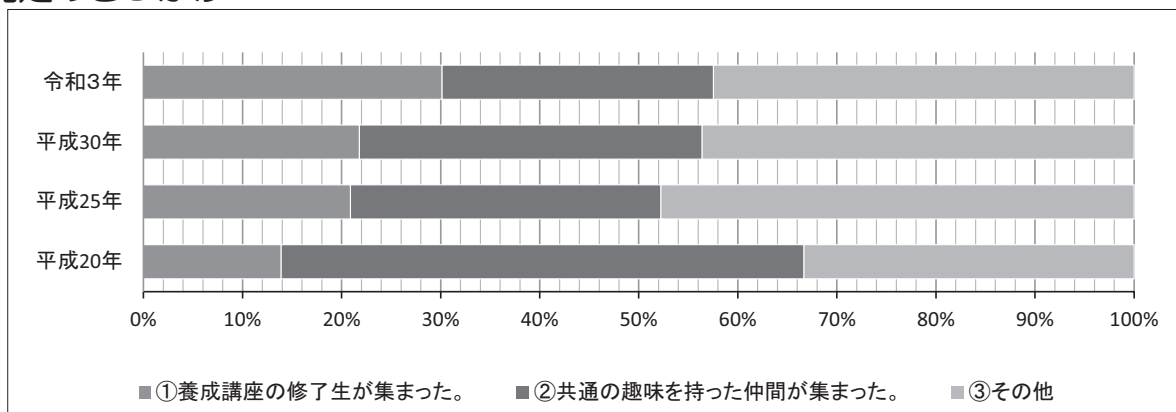
<会員構成>



(単位：名)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
令和3年	59	33	69	142	187	297	399	1,186
	5.0%	2.8%	5.8%	12.0%	15.8%	25.0%	33.6%	100.0%
平成30年	63	32	80	122	164	397	459	1,317
	4.8%	2.4%	6.1%	9.3%	12.5%	30.1%	34.9%	100.0%
平成25年	9	49	69	154	273	432	453	1,439
	0.6%	3.4%	4.8%	10.7%	19.0%	30.0%	31.5%	100.0%
平成20年	12	7	35	65	121	205	141	586
	2.0%	1.2%	6.0%	11.1%	20.6%	35.0%	24.1%	100.0%

<発足のきっかけ>

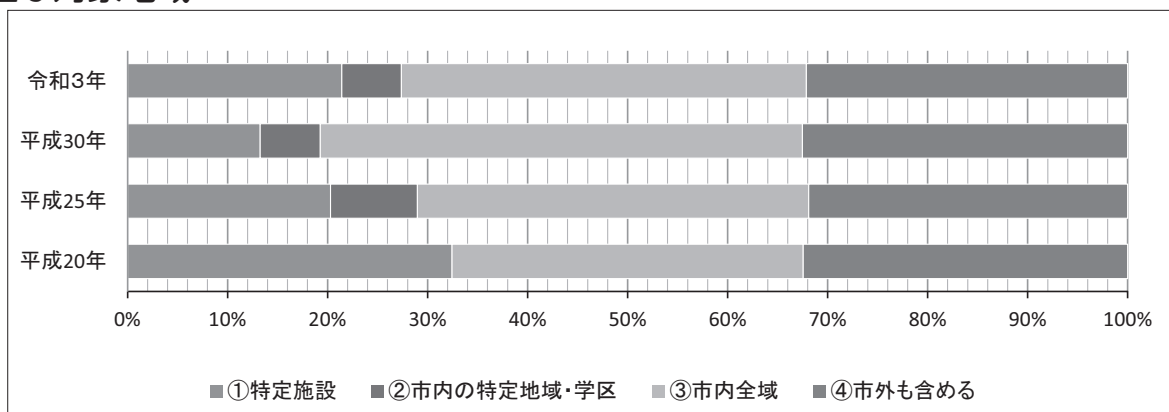


(単位：団体)

	①養成講座の修了生が集まった	②共通の趣味を持った仲間が集まった	③その他
令和3年	22	20	31
	30.1%	27.4%	42.5%
平成30年	17	27	34
	21.8%	34.6%	43.6%
平成25年	14	21	32
	20.9%	31.3%	47.8%
平成20年	5	19	12
	13.9%	52.8%	33.3%

(2) 活動状況について

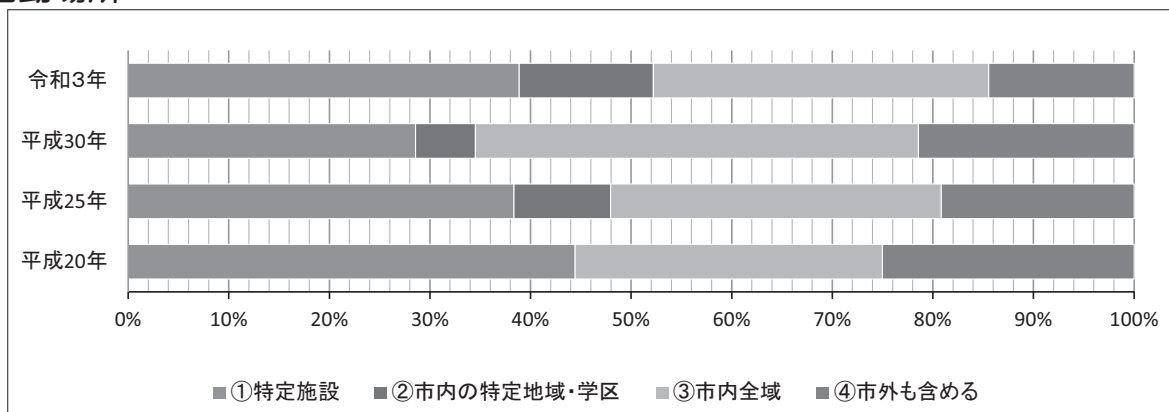
<主な対象地域>



(単位：団体)

	① 特定施設	② 市内の特定地域・学区	③ 市内全域	④ 市外も含める
令和3年	18 21.4%	5 6.0%	34 40.5%	27 32.1%
平成30年	11 13.3%	5 6.0%	40 48.2%	27 32.5%
平成25年	14 20.3%	6 8.7%	27 39.1%	22 31.9%
平成20年	12 32.4%	0 0.0%	13 35.1%	12 32.4%

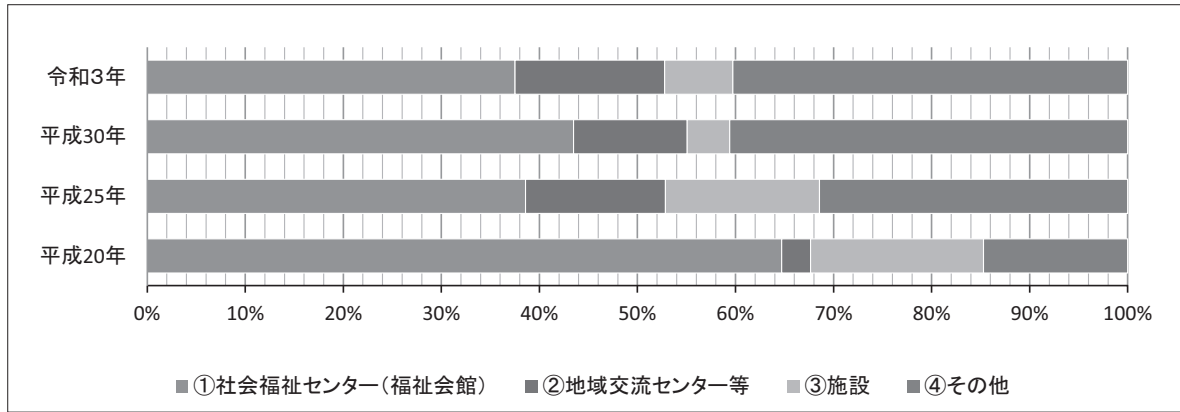
<活動場所>



(単位：団体)

	① 特定施設	② 市内の特定地域・学区	③ 市内全域	④ 市外も含める
令和3年	35 38.9%	12 13.3%	30 33.3%	13 14.4%
平成30年	24 28.6%	5 6.0%	37 44.0%	18 21.4%
平成25年	28 38.4%	7 9.6%	24 32.9%	14 19.2%
平成20年	16 44.4%	0 0.0%	11 30.6%	9 25.0%

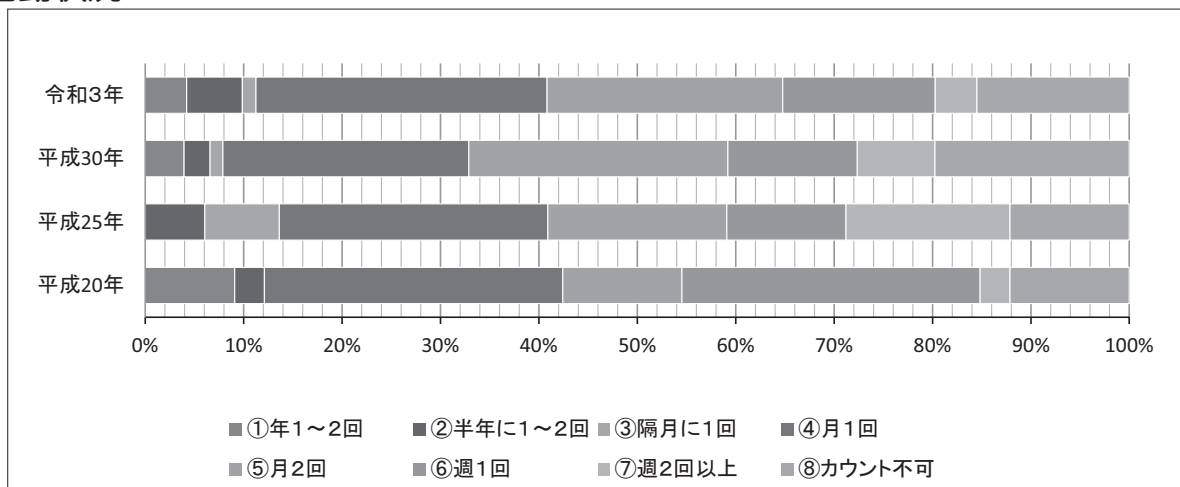
<定例会の開催場所>



(単位：団体)

	①社会福祉センター(福祉会館)	②交流センター等	③施設	④その他
令和3年	27	11	5	29
	37.5%	15.3%	6.9%	40.3%
平成30年	30	8	3	28
	43.5%	11.6%	4.3%	40.6%
平成25年	27	10	11	22
	38.6%	14.3%	15.7%	31.4%
平成20年	22	1	6	5
	64.7%	2.9%	17.6%	14.7%

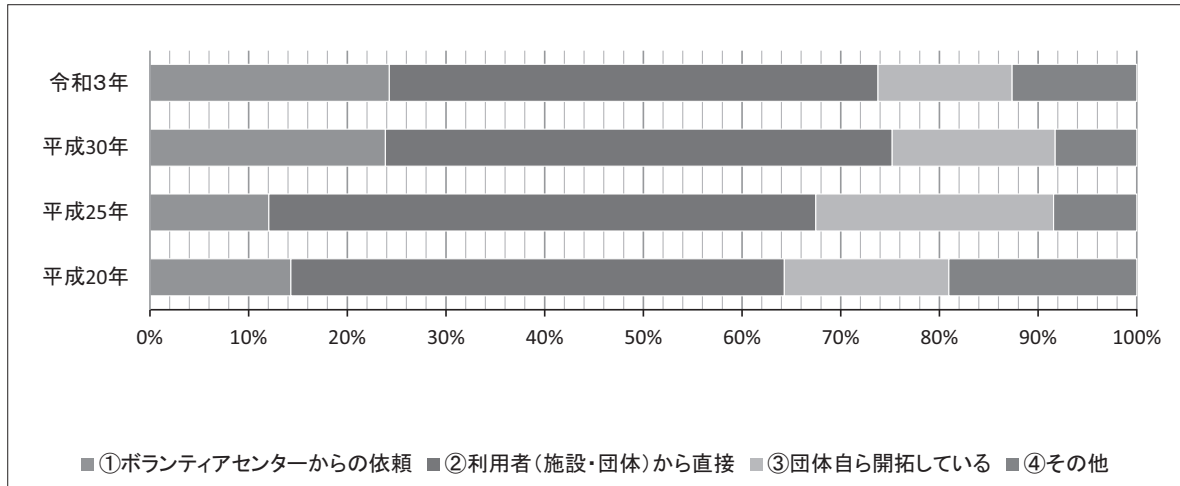
<活動状況>



(単位：団体)

	①年1~2回	②半年に1~2回	③隔月に1回	④月1回	⑤月2回	⑥週1回	⑦週2回以上	⑧カウント不可
令和3年	3	4	1	21	17	11	3	11
	4.2%	5.6%	1.4%	29.6%	23.9%	15.5%	4.2%	15.5%
平成30年	3	2	1	19	20	10	6	15
	3.9%	2.6%	1.3%	25.0%	26.3%	13.2%	7.9%	19.7%
平成25年	0	4	5	18	12	8	11	8
	0.0%	6.1%	7.6%	27.3%	18.2%	12.1%	16.7%	12.1%
平成20年	3	1	0	10	4	10	1	4
	9.1%	3.0%	0.0%	30.3%	12.1%	30.3%	3.0%	12.1%

<活動の依頼元>

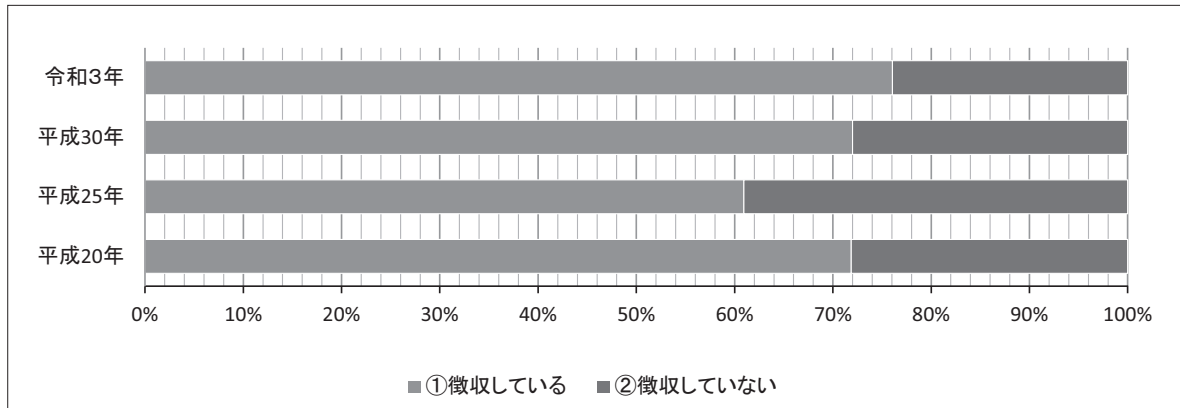


(単位：団体)

	①ボランティアセンターからの依頼	②利用者(施設・団体)から直接	③団体自ら開拓している	④その他
令和3年	25 24.3%	51 49.5%	14 13.6%	13 12.6%
平成30年	26 23.9%	56 51.4%	18 16.5%	9 8.3%
平成25年	10 12.0%	46 55.4%	20 24.1%	7 8.4%
平成20年	6 14.3%	21 50.0%	7 16.7%	8 19.0%

(3) 団体の運営について

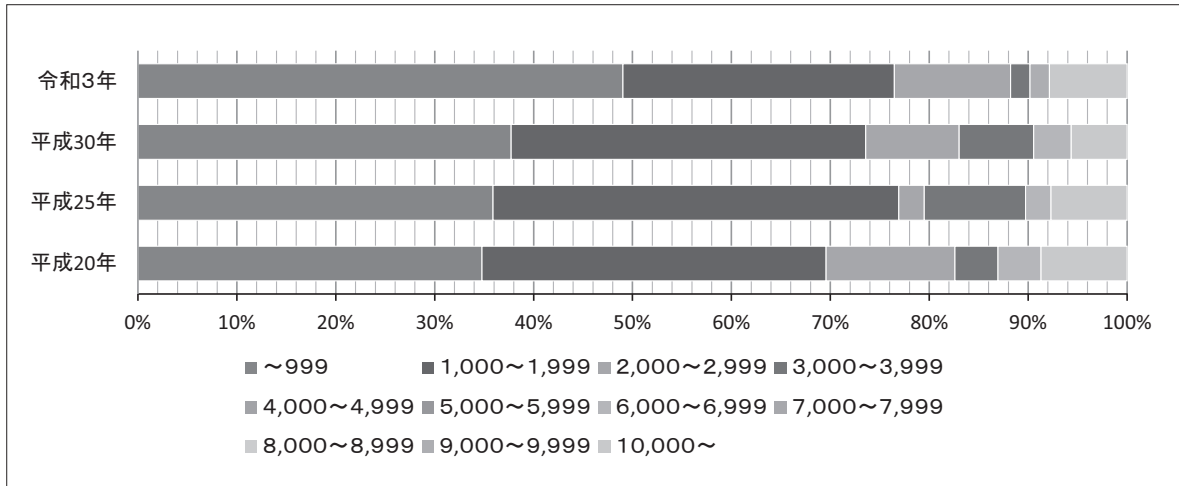
<会費の徴収状況>



(単位：団体)

	①徴収している	②徴収していない
令和3年	54 76.1%	17 23.9%
平成30年	54 72.0%	21 28.0%
平成25年	39 60.9%	25 39.1%
平成20年	23 71.9%	9 28.1%

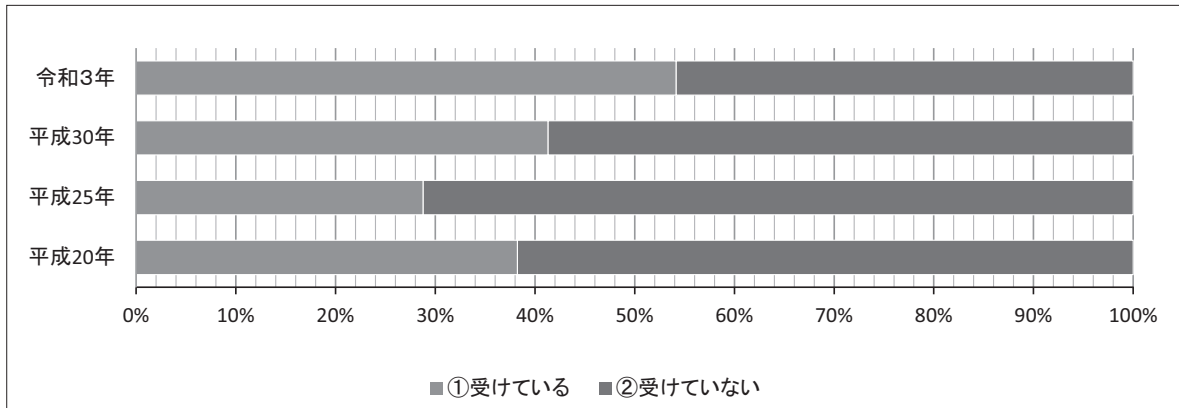
<徴収している場合の会費の金額>



(単位：団体)

	~999	1,000~1,999	2,000~2,999	3,000~3,999	4,000~4,999	5,000~5,999	6,000~6,999	7,000~7,999	8,000~8,999	9,000~9,999	10,000~
令和3年	25 49.0%	14 27.5%	6 11.8%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.0%	4 7.8%
平成30年	20 37.7%	19 35.8%	5 9.4%	4 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 5.7%
平成25年	14 35.9%	16 41.0%	1 2.6%	4 10.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 7.7%
平成20年	8 34.8%	8 34.8%	3 13.0%	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.7%

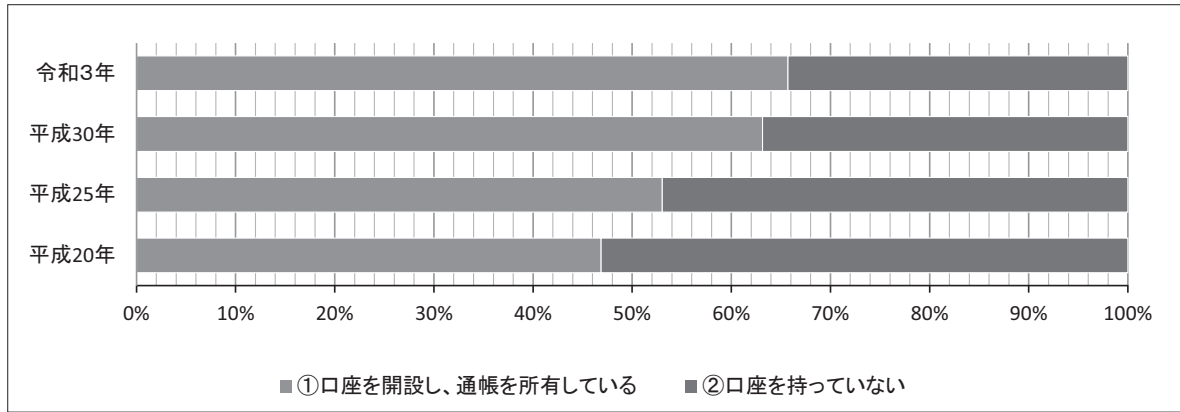
<市社協からの補助金>



(単位：団体)

	①受けている	②受けていない
令和3年	39 54.2%	33 45.8%
平成30年	31 41.3%	44 58.7%
平成25年	19 28.8%	47 71.2%
平成20年	13 38.2%	21 61.8%

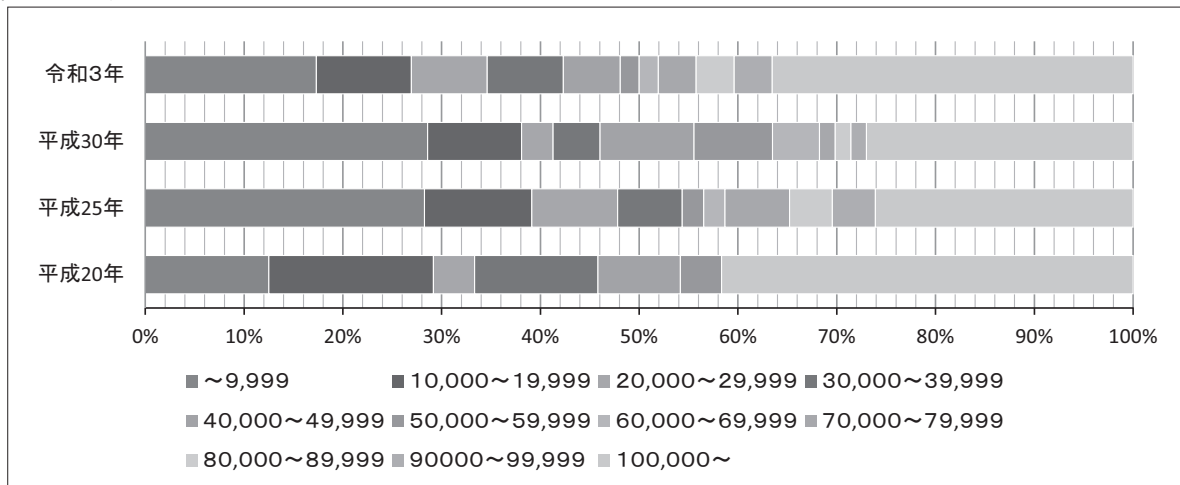
<金融機関の口座について>



(単位：団体)

	①口座開設し、通帳所有	②口座を持っていない
令和3年	46	24
	65.7%	34.3%
平成30年	48	28
	63.2%	36.8%
平成25年	35	31
	53.0%	47.0%
平成20年	15	17
	46.9%	53.1%

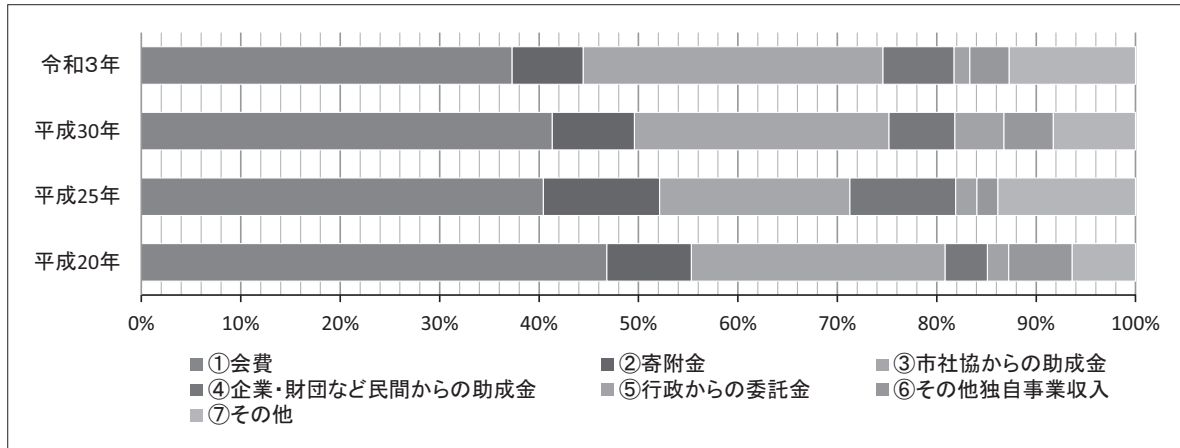
<年度予算>



(単位：団体)

	9,999	10,000 ~ 19,999	20,000 ~ 29,999	30,000 ~ 39,999	40,000 ~ 49,999	50,000 ~ 59,999	60,000 ~ 69,999	70,000 ~ 79,999	80,000 ~ 89,999	90,000 ~ 99,999	100,000 ~
令和3年	9	5	4	4	3	1	1	2	2	2	19
	17.3%	9.6%	7.7%	7.7%	5.8%	1.9%	1.9%	3.8%	3.8%	3.8%	36.5%
平成30年	18	6	2	3	6	5	3	1	1	1	17
	28.6%	9.5%	3.2%	4.8%	9.5%	7.9%	4.8%	1.6%	1.6%	1.6%	27.0%
平成25年	13	5	4	3	0	1	1	3	2	2	12
	28.3%	10.9%	8.7%	6.5%	0.0%	2.2%	2.2%	6.5%	4.3%	4.3%	26.1%
平成20年	3	4	1	3	2	1	0	0	0	0	10
	12.5%	16.7%	4.2%	12.5%	8.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	41.7%

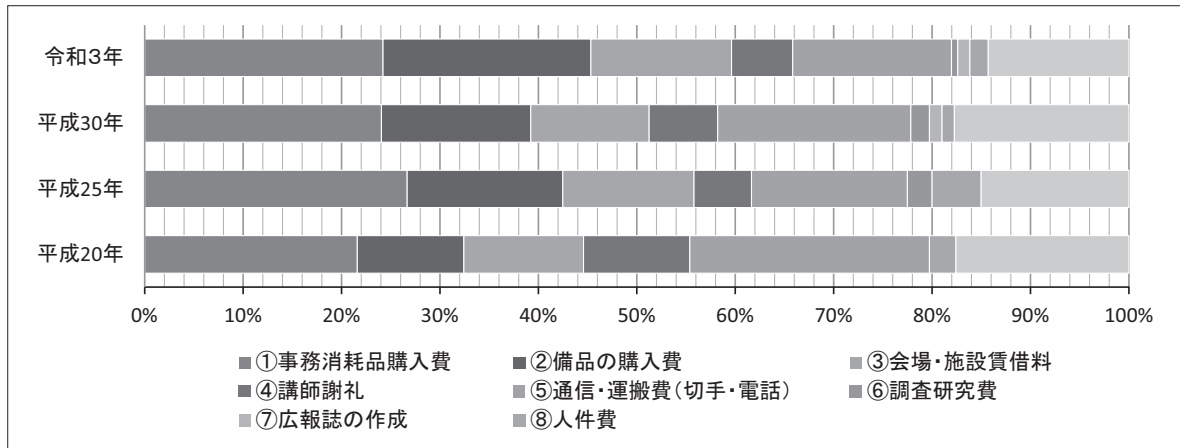
<収入の多い金額>



(単位：団体)

	①会費	②寄附金	③市社協からの助成金	④企業・財団など民間からの助成金	⑤行政からの委託金	⑥その他独自事業収入	⑦その他
令和3年	47	9	38	9	2	5	16
	37.3%	7.1%	30.2%	7.1%	1.6%	4.0%	12.7%
平成30年	50	10	31	8	6	6	10
	41.3%	8.3%	25.6%	6.6%	5.0%	5.0%	8.3%
平成25年	38	11	18	10	2	2	13
	40.4%	11.7%	19.1%	10.6%	2.1%	2.1%	13.8%
平成20年	22	4	12	2	1	3	3
	46.8%	8.5%	25.5%	4.3%	2.1%	6.4%	6.4%

<支出の多い項目>

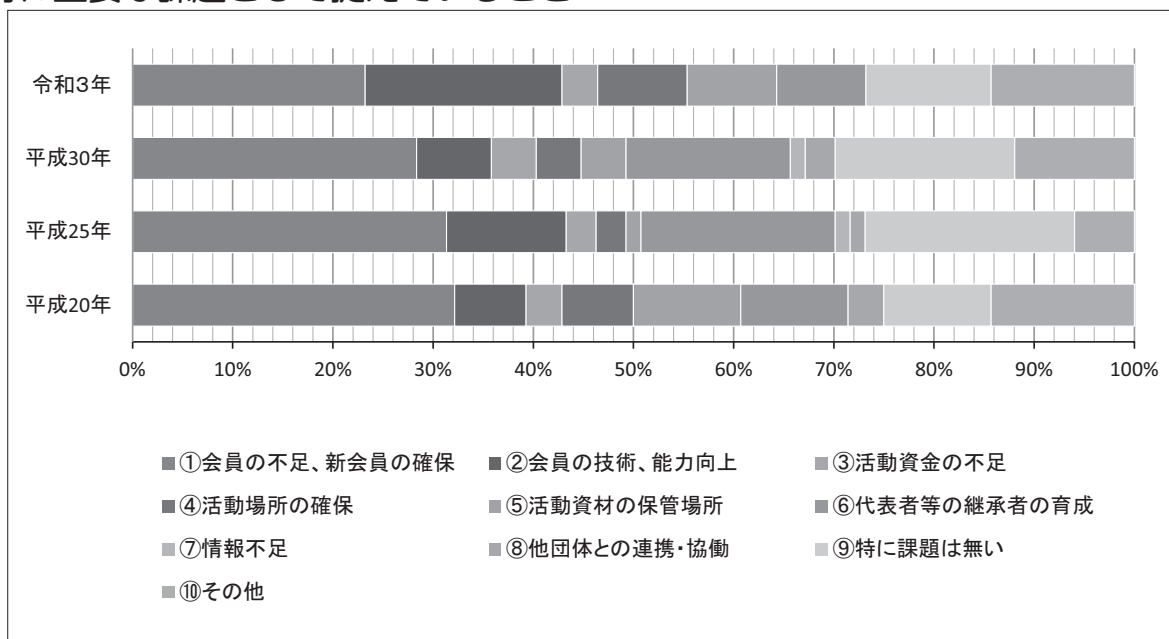


(単位：団体)

	①事務消耗品購入費	②備品の購入費	③会場・施設賃借料	④講師謝礼	⑤通信・運搬費(切手・電話)	⑥調査研究費	⑦広報誌の作成	⑧人件費	⑨その他
令和3年	39	34	23	10	26	1	2	3	23
	24.2%	21.1%	14.3%	6.2%	16.1%	0.6%	1.2%	1.9%	14.3%
平成30年	38	24	19	11	31	3	2	2	28
	24.1%	15.2%	12.0%	7.0%	19.6%	1.9%	1.3%	1.3%	17.7%
平成25年	32	19	16	7	19	3	0	6	18
	26.7%	15.8%	13.3%	5.8%	15.8%	2.5%	0.0%	5.0%	15.0%
平成20年	16	8	9	8	18	0	0	2	13
	21.6%	10.8%	12.2%	10.8%	24.3%	0.0%	0.0%	2.7%	17.6%

(4) 団体の課題について

<特に重要な課題として捉えていること>

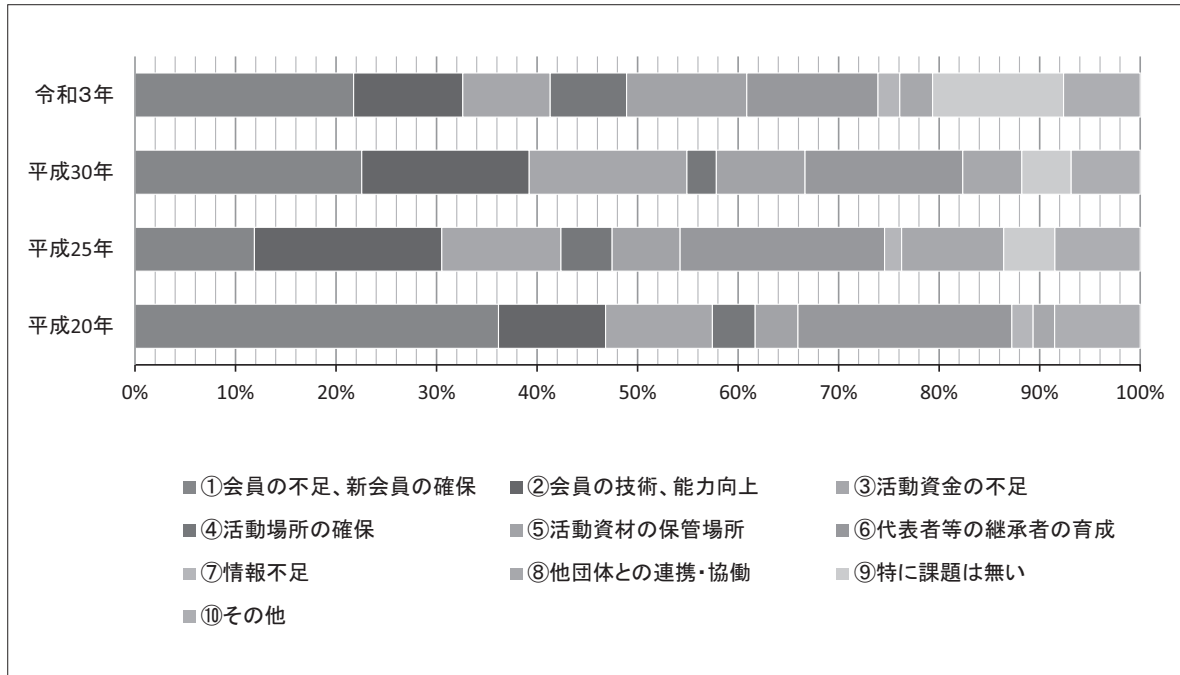


(単位：団体)

	①会員の不足、 新会員の確保	②会員の技術、 能力向上	③活動資金の不足	④活動場所の確保	⑤活動資材の 保管場所
令和3年	13 23.2%	11 19.6%	2 3.6%	5 8.9%	5 8.9%
平成30年	19 28.4%	5 7.5%	3 4.5%	3 4.5%	3 4.5%
平成25年	21 31.3%	8 11.9%	2 3.0%	2 3.0%	1 1.5%
平成20年	9 32.1%	2 7.1%	1 3.6%	2 7.1%	3 10.7%

	⑥代表者等の 後継者の育成	⑦情報不足	⑧他団体との 連携・協働	⑨特に課題は無い	⑩その他
令和3年	5 8.9%	0 0.0%	0 0.0%	7 12.5%	8 14.3%
平成30年	11 16.4%	1 1.5%	2 3.0%	12 17.9%	8 11.9%
平成25年	13 19.4%	1 1.5%	1 1.5%	14 20.9%	4 6.0%
平成20年	3 10.7%	0 0.0%	1 3.6%	3 10.7%	4 14.3%

<課題として捉えていること>

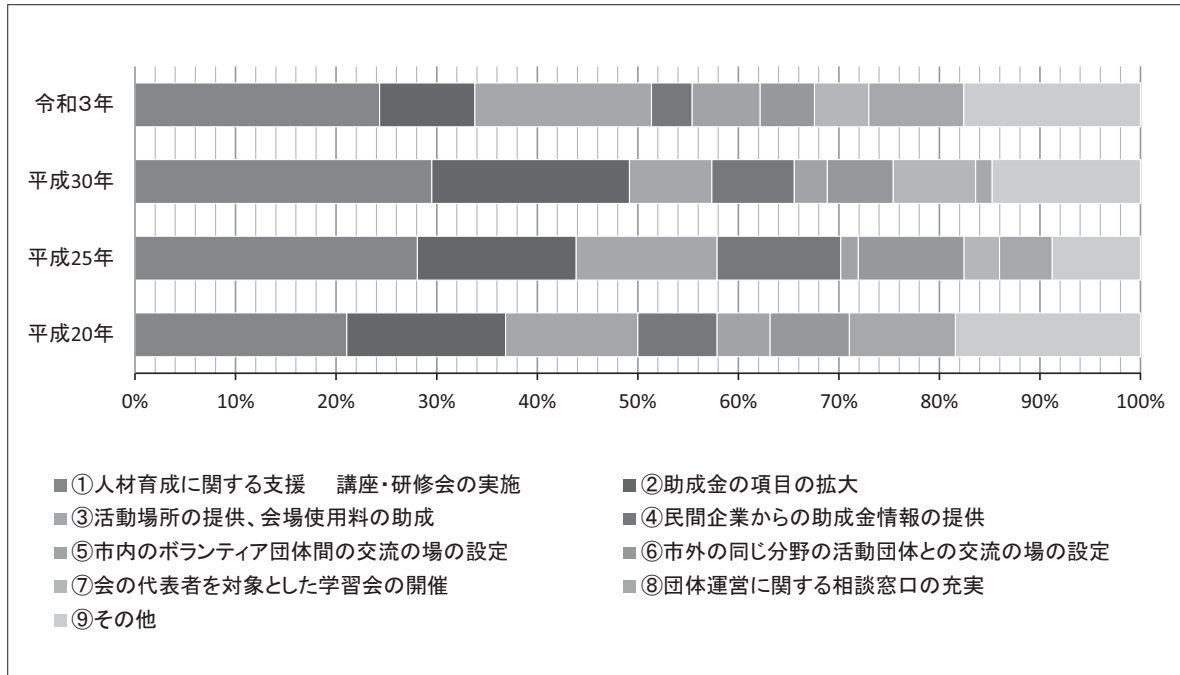


(単位：団体)

	①会員の不足、 新会員の確保	②会員の技術、 能力向上	③活動資金の不足	④活動場所の確保	⑤活動資材の 保管場所
令和3年	20	10	8	7	11
	21.7%	10.9%	8.7%	7.6%	12.0%
平成30年	23	17	16	3	9
	22.5%	16.7%	15.7%	2.9%	8.8%
平成25年	7	11	7	3	4
	11.9%	18.6%	11.9%	5.1%	6.8%
平成20年	17	5	5	2	2
	36.2%	10.6%	10.6%	4.3%	4.3%

	⑥代表者等の 後継者の育成	⑦情報不足	⑧他団体との 連携・協働	⑨特に課題は無い	⑩その他
令和3年	12	2	3	12	7
	13.0%	2.2%	3.3%	13.0%	7.6%
平成30年	16	0	6	5	7
	15.7%	0.0%	5.9%	4.9%	6.9%
平成25年	12	1	6	3	5
	20.3%	1.7%	10.2%	5.1%	8.5%
平成20年	10	1	1	0	4
	21.3%	2.1%	2.1%	0.0%	8.5%

<課題解決に向け、市社協に要望すること>

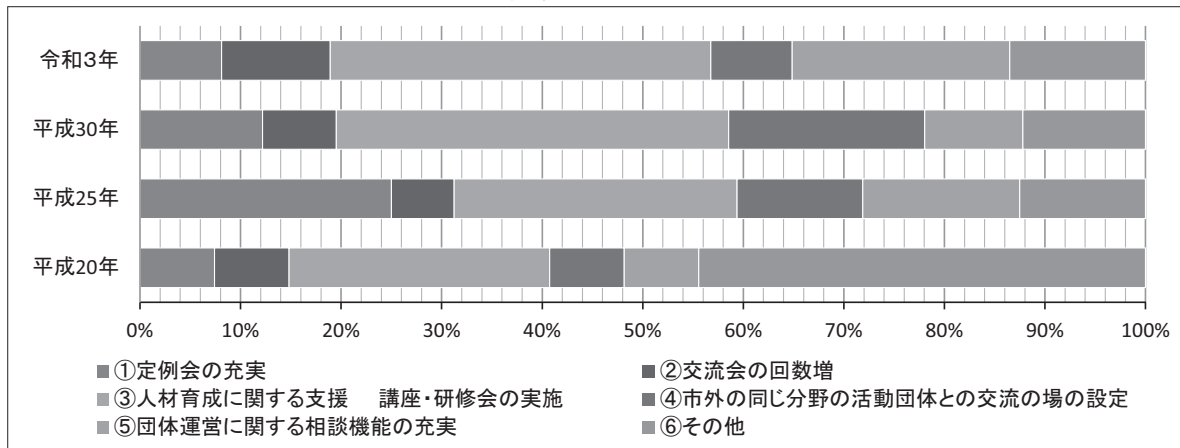


(単位：団体)

	①人材育成支援、講座・研修会の実施	②助成金項目の拡大	③活動場所の提供、会場使用料の助成	④民間企業助成情報の提供	⑤市内ボランティア活動団体との交流の場の設定
令和3年	18 24.3%	7 9.5%	13 17.6%	3 4.1%	5 6.8%
平成30年	18 29.5%	12 19.7%	5 8.2%	5 8.2%	2 3.3%
平成25年	16 28.1%	9 15.8%	8 14.0%	7 12.3%	1 1.8%
平成20年	8 21.1%	6 15.8%	5 13.2%	3 7.9%	2 5.3%

	⑥市外の同分野の活動団体との交流の場の設定	⑦会の代表者対象の学習会開催	⑧団体運営に関する相談窓口の充実	⑨その他
令和3年	4 5.4%	4 5.4%	7 9.5%	13 17.6%
平成30年	4 6.6%	5 8.2%	1 1.6%	9 14.8%
平成25年	6 10.5%	2 3.5%	3 5.3%	5 8.8%
平成20年	3 7.9%	0 0.0%	4 10.5%	7 18.4%

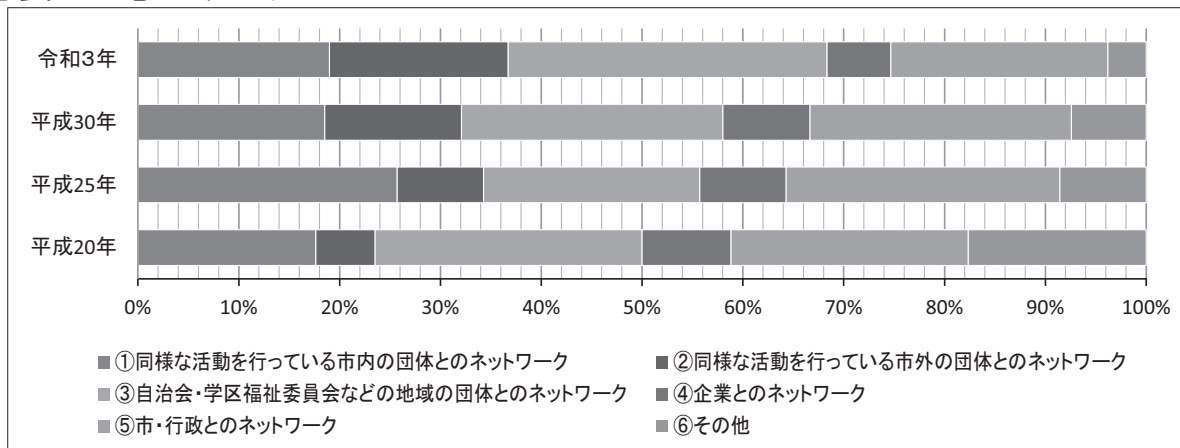
<課題解決に向け、ボランティア連絡協議会に要望すること>



(単位：団体)

	①定例会の充実	②交流会の回数増	③人材育成支援、講座・研修会の実施	④市外の同分野の活動団体との交流の場の設定	⑤団体運営に関する相談機能の充実	⑥その他
令和3年	3 8.1%	4 10.8%	14 37.8%	3 8.1%	8 21.6%	5 13.5%
平成30年	5 12.2%	3 7.3%	16 39.0%	8 19.5%	4 9.8%	5 12.2%
平成25年	8 25.0%	2 6.3%	9 28.1%	4 12.5%	5 15.6%	4 12.5%
平成20年	2 7.4%	2 7.4%	7 25.9%	2 7.4%	2 7.4%	12 44.4%

<必要だと思うネットワークについて>

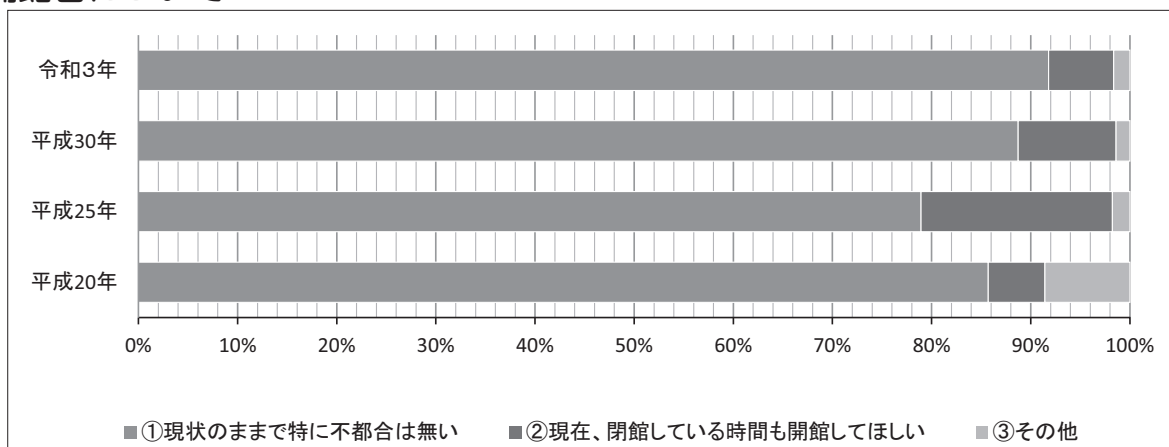


(単位：団体)

	①同様な活動の市内団体とのネットワーク	②同様な活動の市外団体とのネットワーク	③自治会・学区福祉委員会などの地域団体とのネットワーク	④企業とのネットワーク	⑤市・行政とのネットワーク	⑥その他
令和3年	15 19.0%	14 17.7%	25 31.6%	5 6.3%	17 21.5%	3 3.8%
平成30年	15 18.5%	11 13.6%	21 25.9%	7 8.6%	21 25.9%	6 7.4%
平成25年	18 25.7%	6 8.6%	15 21.4%	6 8.6%	19 27.1%	6 8.6%
平成20年	6 17.6%	2 5.9%	9 26.5%	3 8.8%	8 23.5%	6 17.6%

(5) ボランティアセンターについて

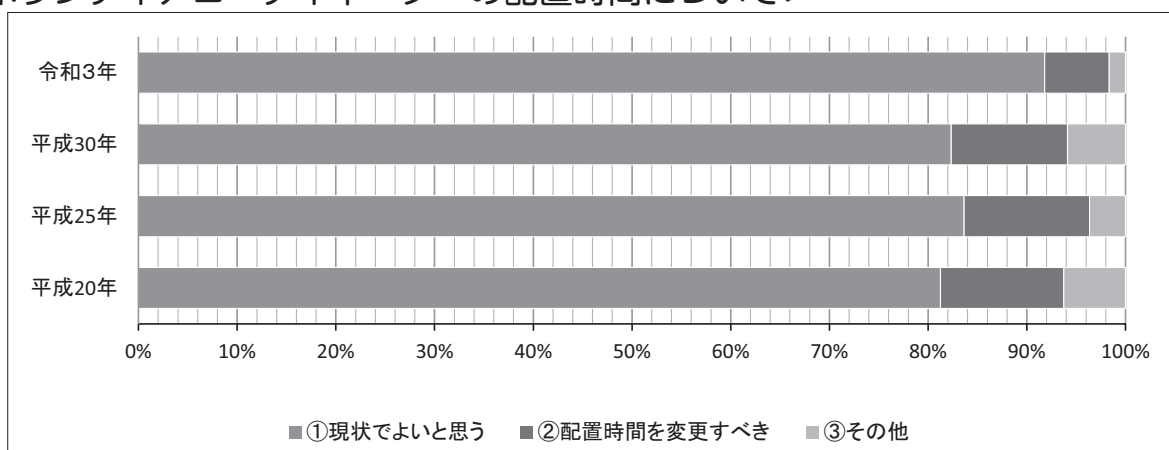
<開館日について>



(単位：団体)

	①現状のままで特に不都合無し	②現在の閉館時間も開館してほしい	③その他
令和3年	56 91.8%	4 6.6%	1 1.6%
平成30年	63 88.7%	7 9.9%	1 1.4%
平成25年	45 78.9%	11 19.3%	1 1.8%
平成20年	30 85.7%	2 5.7%	3 8.6%

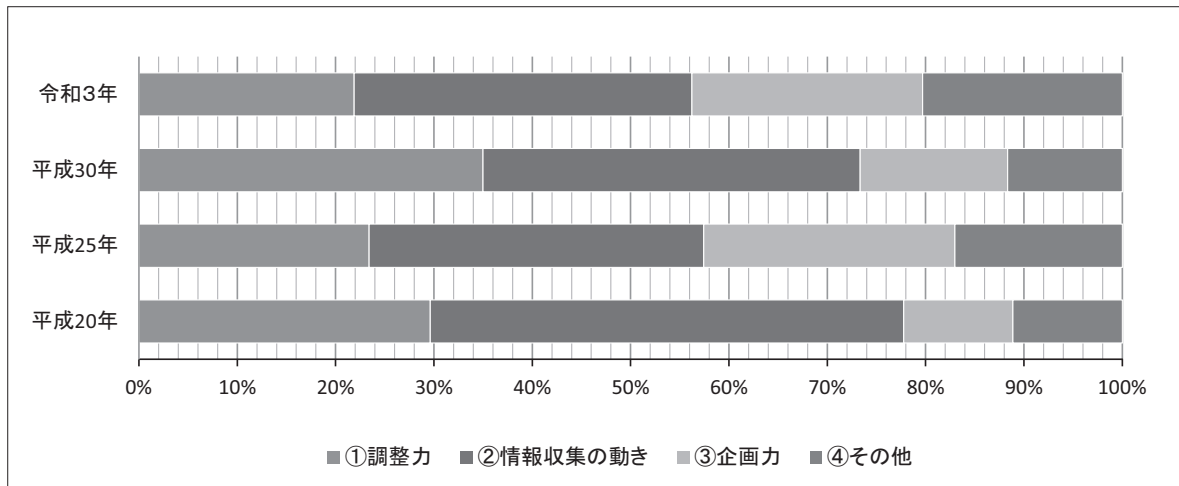
<ボランティアコーディネーターの配置時間について>



(単位：団体)

	①現状でよいと思う	②配置時間を変更すべき	③その他
令和3年	56 91.8%	4 6.6%	1 1.6%
平成30年	56 82.4%	8 11.8%	4 5.9%
平成25年	46 83.6%	7 12.7%	2 3.6%
平成20年	26 81.3%	4 12.5%	2 6.3%

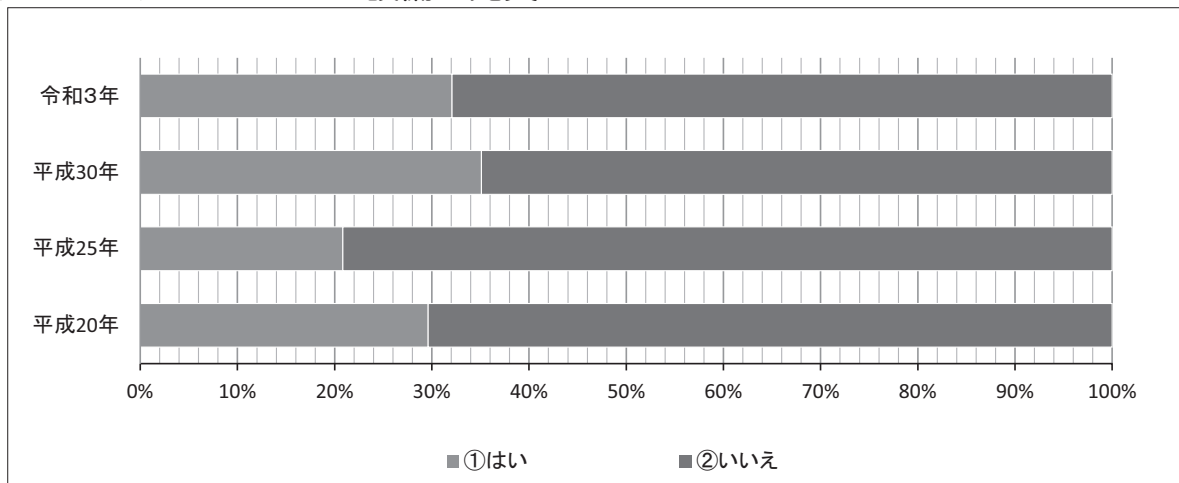
<ボランティアコーディネーターに望むこと>



(単位：団体)

	①調整力	②情報収集の動き	③企画力	④その他
令和3年	14	22	15	13
	21.9%	34.4%	23.4%	20.3%
平成30年	21	23	9	7
	35.0%	38.3%	15.0%	11.7%
平成25年	11	16	12	8
	23.4%	34.0%	25.5%	17.0%
平成20年	8	13	3	3
	29.6%	48.1%	11.1%	11.1%

<ボランティアセンターの設備で充実させてほしいものがありますか？>



(単位：団体)

	①はい	②いいえ
令和3年	17	36
	32.1%	67.9%
平成30年	20	37
	35.1%	64.9%
平成25年	10	38
	20.8%	79.2%
平成20年	8	19
	29.6%	70.4%

ボランティアに関するアンケート調査結果（福祉事業所）

高齢者関係施設 438施設 障がい者関係施設 150施設 総回答数 273名

【性別】

男性	女性
80名	193名

【勤続年数について】

1年未満	1～2年	3～4年	5～6年	7～8年	9～10年	11年以上
24名	60名	56名	40名	29名	25名	39名

【主な対象者】（重複あり）

選択肢	人数
障がい者	127名
高齢者	159名
その他	4名

【業務内容】（重複あり）

選択肢	人数
相談業務	113名
デイサービス等通所事業	77名
特養等入所施設	104名
訪問系サービス事業所	38名
その他（以下主な内訳）	20名
（役員・管理業務）	（12名）
（学習支援）	（1名）
（福祉用具）	（2名）
（有償ボランティア）	（1名）
（事務）	（4名）

問1 ボランティアセンターの存在をご存知ですか。

選択肢	人数
知っている	172名
知らない（問4へ）	101名

問2 ボランティアセンターを利用したことはありますか。

選択肢	人数
はい	67名
いいえ（問4へ）	120名

問3-1 どのような内容で利用しましたか。

選択肢	人数
個人的に来てほしくて依頼した	0名
業務上で来てほしくて依頼した	61名
自分自身が活動をしたくて利用した	3名
その他（主な内容） ・どのようなボランティアがあるか問い合わせた ・利用者から希望があり、相談した	2名

問3-2 どのような方法で利用しましたか。（複数回答）

選択肢	人数
訪問	24名
電話	52名
FAX	8名
Eメール	3名
インターネット、HP	2名

問4 ボランティアセンターを利用したことがないのはなぜですか。

選択肢	人数
場所、連絡先を知らない	56名
どのような時に利用していいかわからない	86名
特に必要性を感じたことがない	81名
求める内容がない	27名
その他（主な内容） ・依頼したが、ボランティアが見つからないといわれた ・個別に依頼している ・新型コロナウイルス感染症の影響でボランティアを受け入れられない ・存在を知らなかった ・初めての依頼は不安がある ・依頼できる内容かわからない など	21名

問5-1 ボランティアセンターのTwitter、Facebook、HPを見たことがありますか。

選択肢	人数
見たことがある	35名
見たことがない（問6へ）	238名

問5-2 Twitter、Facebook、HPを見ていかがでしたか。

選択肢	人数
わかりやすい	44名
わかりにくい	2名

問6-1 施設や事業所ではコロナ禍でのボランティア受け入れを行っていますか。

選択肢	人数
受け入れている	33名
受け入れていない	227名
受け入れたいと思っている	13名

問6-2 受け入れのためのマニュアルがあれば受け入れたいと思いますか。

選択肢	人数
受け入れたい	131名
受け入れたくない	78名

問6-3 オンラインでのボランティアがあれば利用したいと思いますか。

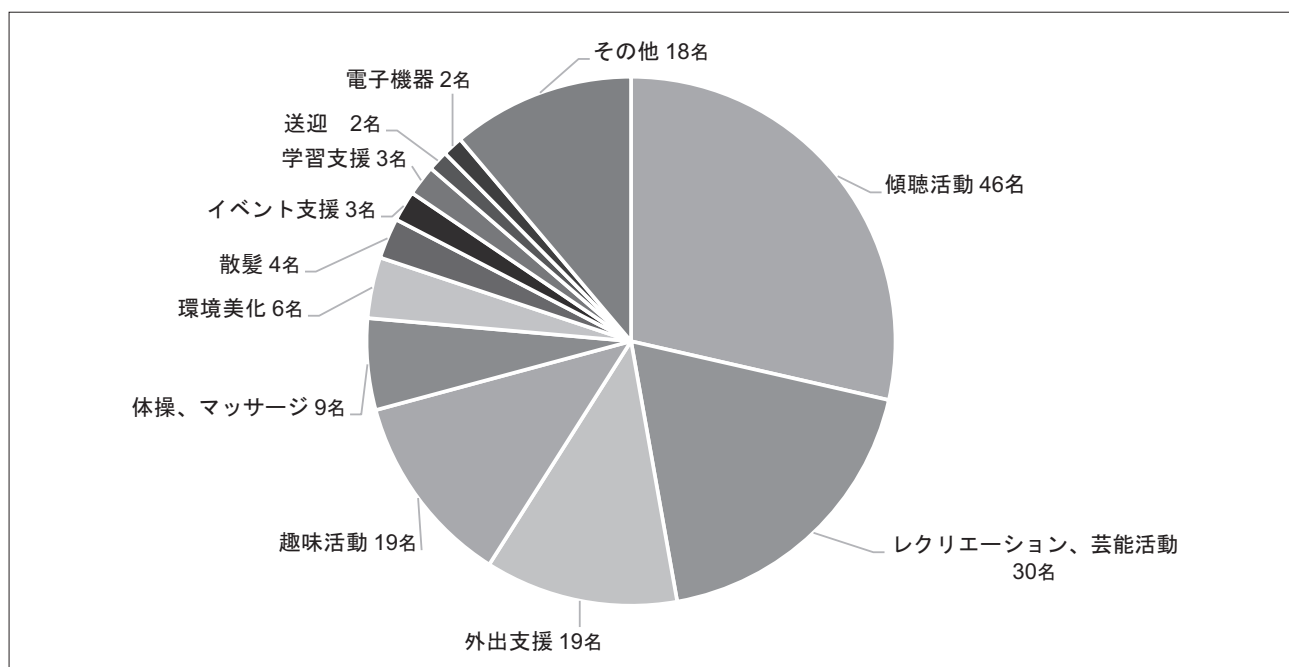
選択肢	人数
利用したい	100名
利用したくない	114名
利用したいが設備がない	57名

問7 ボランティアセンターとは関係なく施設独自でボランティアの受け入れをしていますか。

選択肢	人数
受け入れしている	92名
受け入れしていない	180名

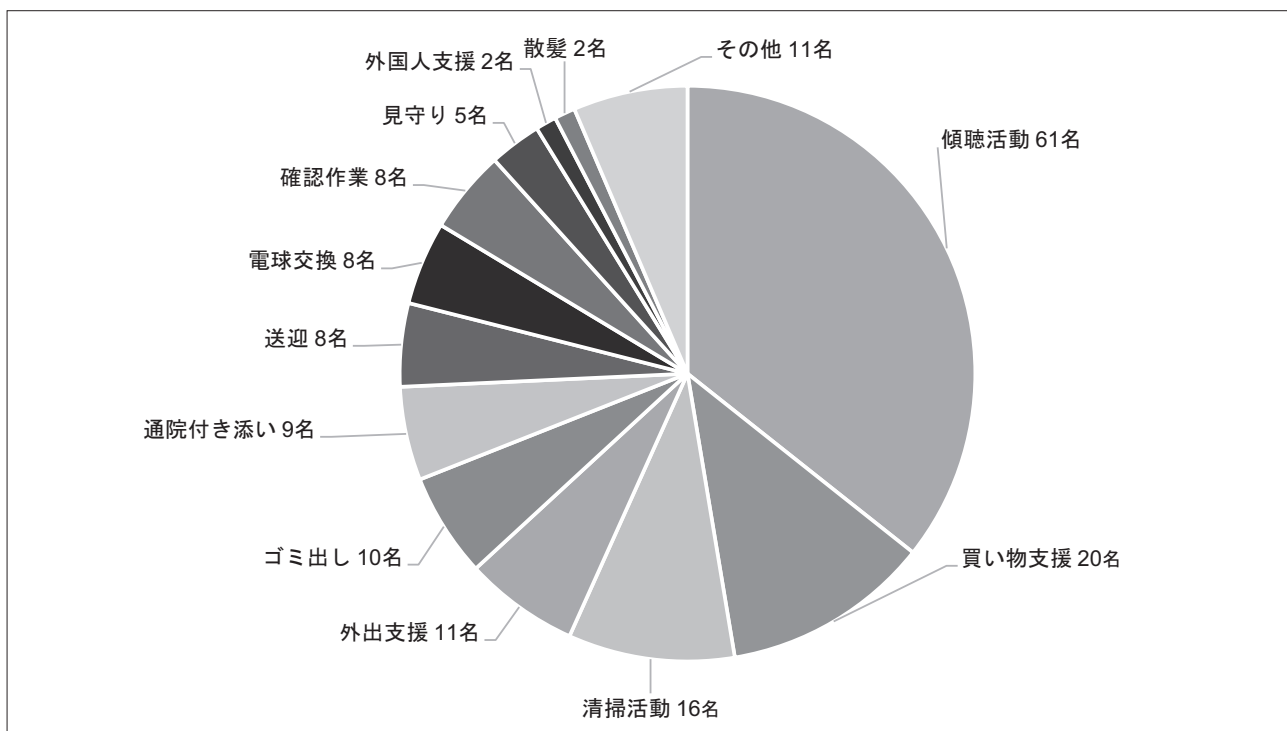
問8 あったらしいなと思うボランティア

【福祉施設でのボランティア】



活動分野	理由
傾聴活動	傾聴しながら趣味活動／話し相手 ・同世代のボランティアと話したい利用者が多い ・普段関わりを持っていない人と交流したい
レクリエーション 芸能活動	レクリエーション／料理／音楽会／お楽しみ会／手品／楽器演奏／歌／落語／人形劇／昔遊び／踊り ・コロナの影響もありあまり外に出られないため施設内で充実した時間を提供したい
外出支援	散歩の付き添い／行事の際に車いす誘導／通院付き添い ・一緒に外出できる職員がいない状況にあり、外出レクリエーションでは慣れていないところに行くこともあるため補助してほしい
趣味活動	工作／将棋／編み物／畑／紙芝居／麻雀／囲碁／習字／絵手紙／歌／花／折り紙／俳句／短歌／オセロ ・職員では技術がないので利用者の希望に添えない ・囲碁や将棋は同じレベルの人と対局したい
体操 マッサージ	介護体操／ハンドマッサージ／マッサージ／ストレッチ／足浴 ・職員では知識がないため対応できない ・体操はDVDを使っているが実際に交流しながら体操をしたい
環境美化	施設の清掃／草取りや草刈り／花壇の手入れ／展示物などの環境整備 ・利用者と一緒に作業してほしい ・職員では必要最低限のことしかできない
散髪	施設内での理美容／入浴後の整髪／ドライヤー ・料金が支払えない利用者がある ・障がいのある子どもは大きな声を出すこともありカットに行きづらい
イベント支援	イベント当日の運営支援／コロナ収束後のイベント支援 ・コロナの影響で外部の人と関わる機会が減っている ・イベント時は利用者が余裕をもって参加できるようにしたい
学習支援	学習ボランティア／外国人への日本語指導 ・宿題を見てほしい ・外国人に日本語を教えてほしい
送迎	自宅から施設への送迎 ・施設に来たくても来れない利用者がある
電子機器	パソコン教室／携帯／スマホ教室 ・高齢者が使えるようにレクチャーしてほしい
その他	託児／食事の介助／裁縫／地域のサロンの支援／見守り／化粧／子どもの遊び相手／ドッグセラピー／駄菓子屋ボランティア など

【個人宅でのボランティア】



活動分野	理由
傾聴活動	サービス時間外の傾聴／介護サービス中の傾聴 ・地域のサロン等に行けない人や介護サービスを利用するほどでもないが お話をしたい人の傾聴
買い物支援	必要な時に買い物に付き添う／車で買い物に連れて行ってくれる／買い物 代行 ・介護サービス内では一緒に買い物に行けない ・嗜好品が買えない
清掃活動	庭の草取り／大掃除／窓ふき／家具の移動／草刈り／庭木の剪定／衣替え ・介護保険で対応できないことが多い ・道具はあるが自分でできなくなってしまった
外出支援	お出かけの付き添い／お墓参りの付き添い／散歩の付き添い ・家族以外と関わりを持ちたい ・一人での外出が不安であったり、外出したいけど出られない人がたくさ んいる
ゴミ出し	ゴミ出し、大型不燃ゴミの処理 ・集積所まで持っていけない ・さわやか収集で処分できないものがある
通院付き添い	通院付き添い／車いすや杖歩行の補助／予約の代理 ・一人では通院が難しい利用者がある ・介護サービスで通院できない
送迎	学校や自宅から施設への送迎／車での送迎 ・施設に来たくても来れない人がいる

活動分野	理由
電球交換	電球交換などの軽作業 ・ 高齢で高所の作業が難しい ・ 介護保険で対応できない
確認作業	安否確認／服薬確認／サービス利用日の連絡／郵便物の確認 ・ 体調確認や服薬確認、郵便物の確認と読み上げをしてほしい ・ サービス利用日を忘れてしまう利用者のための連絡などをしてほしい
見守り	子どもの見守り／独居高齢者の見守り ・ 親が買い物中に障がいのある子どもの見守りをしてほしい ・ 高齢者の見守りがてらお話を聞いてほしい
外国人支援	外国語通訳 ・ 言葉の壁がありコミュニケーションが十分に取れず情報収集が大変な外国人がいるため通訳をしてほしい
散髪	自宅での散髪 ・ 理容室、美容室に行くお金がない ・ 足がなく行くことができない
その他	ペットの世話／地域の困りごとの窓口／介護サービス訪問時に駐車スペースを貸してほしい／化粧などの美容関係／絵本／オセロ／簡単なストレッチ／スマホの使い方 など

問9 その他ご意見

- ・ ボランティアの一部には自分勝手に好き放題やられる方がいる。最低限のモラルを持ってほしい。
- ・ 高齢者に対する在宅福祉のボランティアが少ないなと感じる。
- ・ 必要性は感じているが、新しい職員に慣れるのに時間のかかる利用者も多く、毎回同じ人でないとお願いが難しいという側面があるため、受け入れが難しい。
- ・ 隣接するグループホームから通所される方がいる。どうしても限られた環境しかみていないので、いろいろな分野の方に来て人とのふれあいを通して社会参加できると嬉しい。
- ・ 将来、福祉の仕事がしたいと思っている人がいれば、ぜひボランティアとして活動してほしい。
- ・ 傾聴とは名ばかりで高齢者を小さな子ども扱いする人もいた。
- ・ 「このボランティアは良いな」と思う事が少なかった。
- ・ 見せるだけのボランティアではなく、入居者も参加できるボランティアがほしい。
- ・ 高齢者夫婦や独居の方の片づけは業者に依頼すると高額で低所得者は利用が難しい。
- ・ 傾聴ボランティアに来てほしい。
- ・ 介護保険でカバーできないことをお願いしたい。
- ・ 気軽にボランティアを頼めるシステム作りをしてほしい。(LINEなどのSNS)
- ・ どんなボランティアがあるのかよくわからない。お願いできることを明確にしてほしい。
- ・ 防災に関するボランティアや利用者が行方不明になった時などに活用できるボランティアがあるか知りたい。
- ・ 利用者が高齢となってきたことで、簡単に身体を動かせる体操など座ったままでも取り入れられることを行っていきたい。
- ・ ボランティアには感謝している。交通費など含め有料でもいいのではないかと感じる。

第4次 岡崎市社会福祉協議会
ボランティアセンター推進計画

発行日 令和5年3月

発行 社会福祉法人岡崎市社会福祉協議会
〒444-0802

岡崎市美合町五本松68番地12 岡崎市社会福祉センター 3階

電話 (0564)47-8751 FAX (0564)47-8753

E-mail somu@okazaki-shakyo.jp

岡崎市社会福祉協議会ボランティアセンター

岡崎市社会福祉センター 1階

電話 (0564)47-7955 FAX (0564)47-7956

E-mail vc@okazaki-shakyo.jp



はぴりん

岡崎市社会福祉協議会
ボランティアセンター